

「函館市都市計画マスタープラン」見直しのための

市民アンケート調査結果

【 概要版 】

令和6年3月

函館市都市建設部都市計画課

目次

I 調査の概要

- 1 調査の目的 1
- 2 調査の方法 1

II 回答者の属性

- 1 回答者の性別 2
- 2 回答者の年齢 2
- 3 回答者の居住地区 2
- 4 回答者の居住期間等 3
- 5 回答者の居住形態 4
- 6 回答者の家族構成 4

III 調査結果

- 1 住んでいる地域について 5
- 2 函館市民の定住意識について 11
- 3 普段の交通手段について 16
- 4 函館市の都市づくりについて 18
- 5 まちなかの居住について 25
- 6 市民参加のまちづくりについて 27
- 7 自由意見 29

IV 資料編

- 1 地区区分 30
- 2 調査票 31

I 調査の概要

1 調査の目的

「函館市都市計画マスタープラン」の見直しに向けて、市民の居住する地域の現状に対する満足度や、将来の都市づくりに対する意向の把握を目的とした。

2 調査の方法

(1) 調査対象者

18歳以上の函館市民 4,000人

(2) 抽出方法

住民基本台帳から年齢・地区区分の割合に応じて無作為抽出

※ 地区区分についてはIV-1（30ページ）を参照

(3) 調査期間

令和5年（2023年）9月14日（木）～11月17日（金）

※ 12月15日（金）消印分までを集計

(4) 調査票の配布・回収方法

郵送による配布および回収（返信用封筒を同封）

3 配布・回収結果

配布数： 4,000票

回収数： 1,335票

回収率： 33.4%

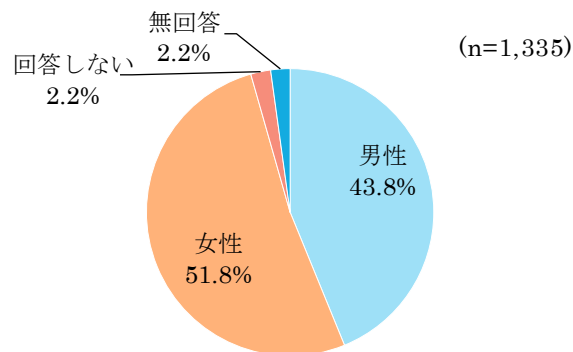
調査結果について

- ・ 単一回答の回答割合は少数第二位以下を四捨五入しているため、図中の内訳を合計しても100%とならない場合がある。
- ・ 複数回答の回答割合は回答者数を母数として算出しているため、合計が100%を超えることがある。
- ・ 図中の「n」は各項目の回答数または分類別の回答数を示している。
- ・ 地区別集計，年代別集計，居住形態別集計および居住期間別集計は，統計的に有意な回答数が確保されておらず，あくまで参考である。

Ⅱ 回答者の属性

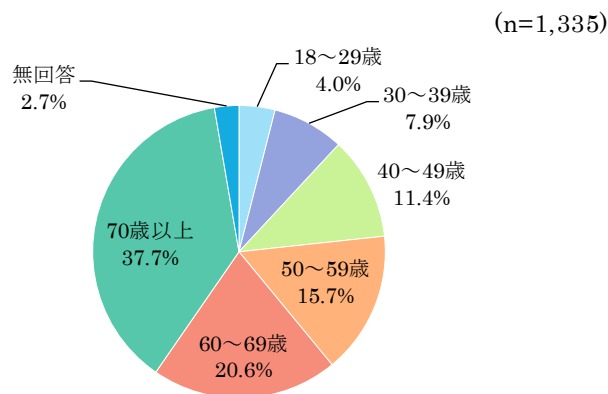
1 回答者の性別

性別は、「男性」が約44%、「女性」が約52%と女性の割合が高くなっている。



2 回答者の年齢

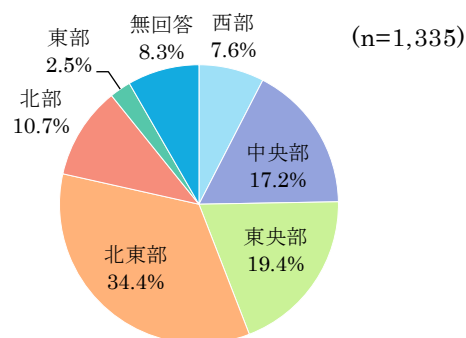
年齢は、「60歳代」が約21%、「70歳以上」が約38%と年齢が高い方からの回答が比較的多くなっている。



3 回答者の居住地区

居住地区は、「北東部地区」が約34%、「東中央部地区」が約19%、「中央部地区」が約17%となっている。

※ 地区区分については、Ⅳ－1 (30ページ)を参照

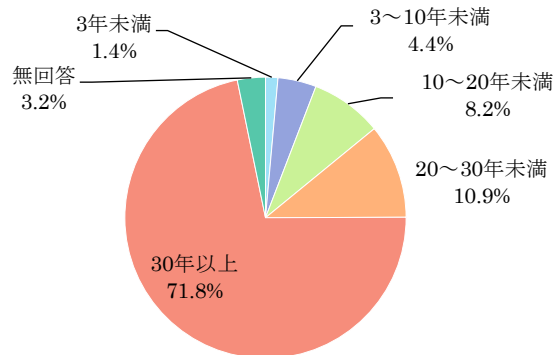


4 回答者の居住期間等

(1) 居住期間

「30年以上」が約72%と大半を占め、次いで「20～30年未満」が約11%となっている。

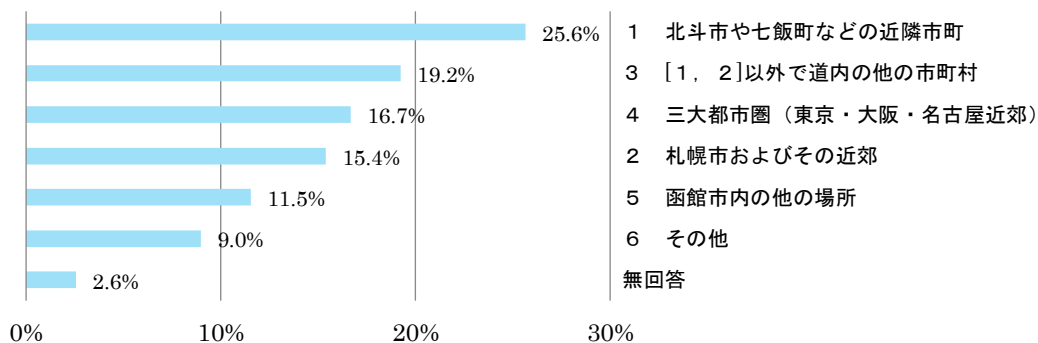
(n=1,335)



(2) 現在以前の居住地（居住期間10年未満）

居住期間が10年未満の方のうち現在以前の居住地は、「北斗市や七飯町などの近隣市町」が約26%、次いで「道内の他の市町村」が約19%となっている。

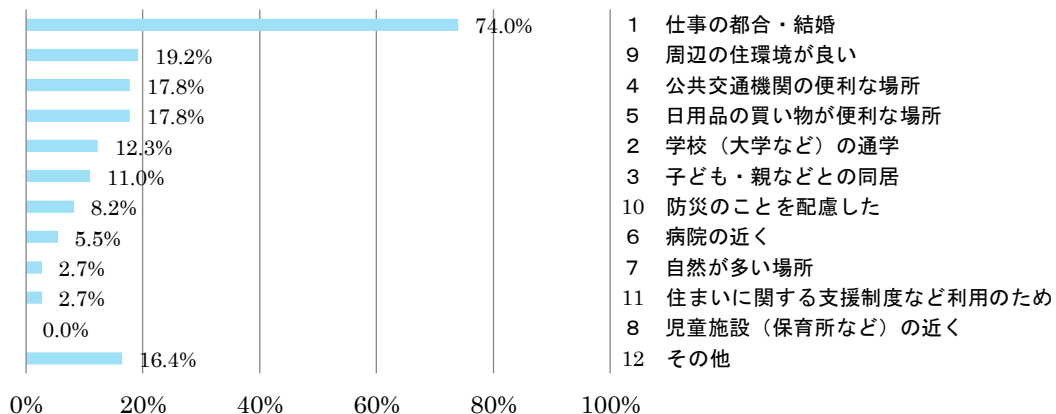
(n=78)



(3) 現在の居住地への転居理由 【3つまで選択】

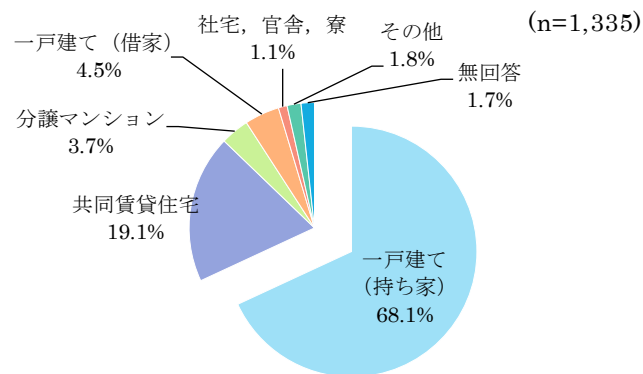
転居理由は、「仕事の都合・結婚」が約74%と大半を占め、次いで「公共交通機関の便利な場所」が約19%となっている。

(n=73)



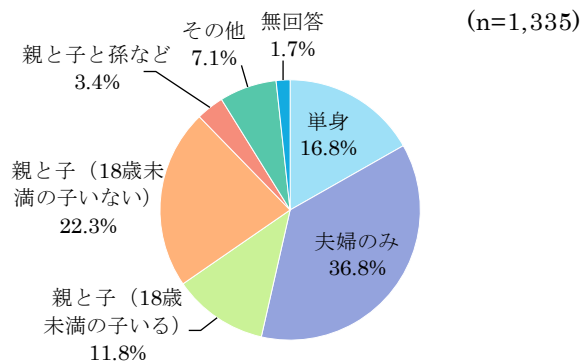
5 回答者の居住形態

居住形態は、「一戸建て(持ち家)」が約68%と大半を占め、次いで「共同賃貸住宅」が約19%となっている。



6 回答者の家族構成

家族構成は、「夫婦のみ」が約37%、次いで「親と子(18歳未満の子がない)」が約22%を占める一方で、「単身」も約17%と一定割合を占めている。



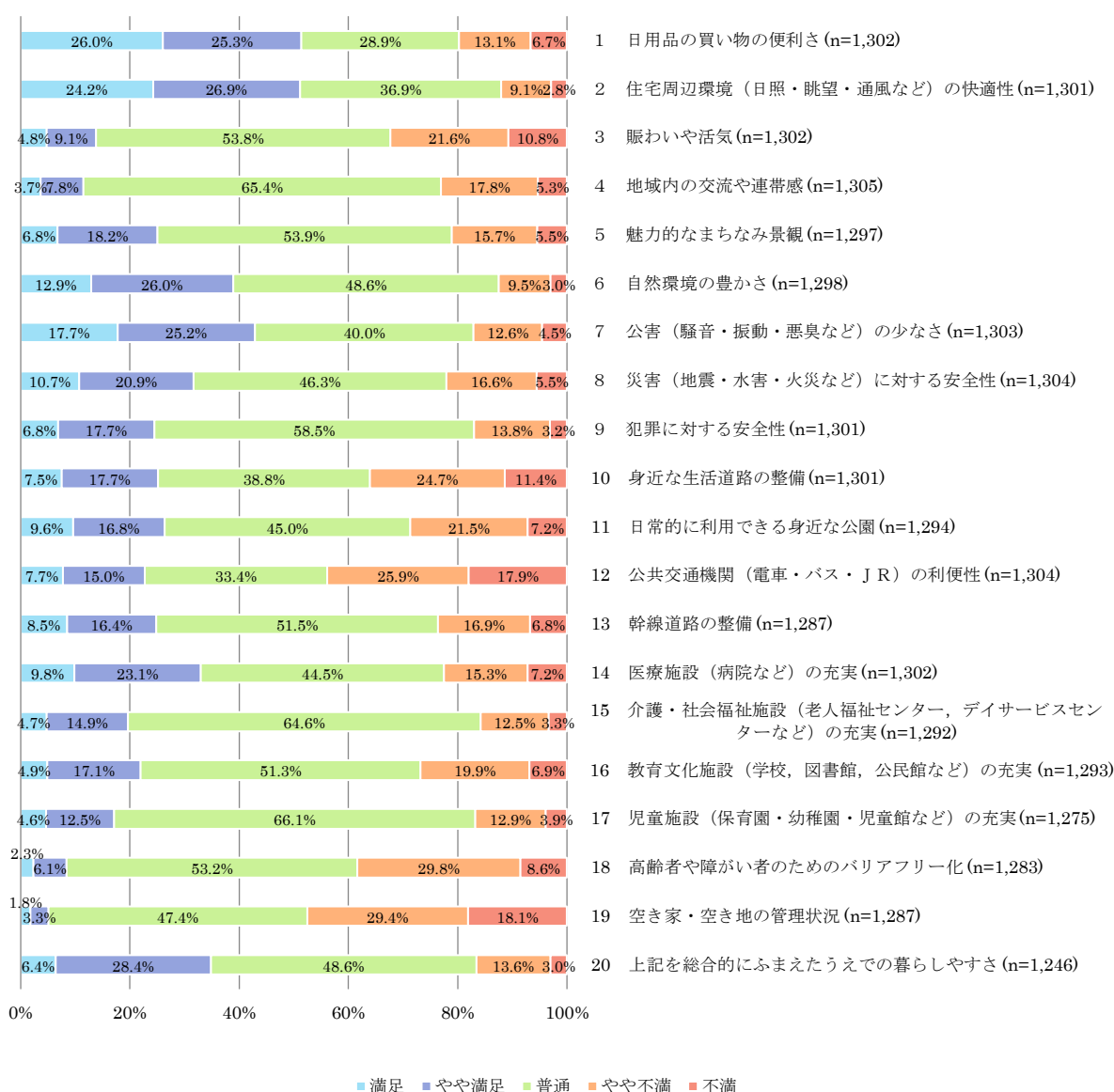
Ⅲ 調査結果

1 住んでいる地域について

(1) 地域に対する満足度（問1）

回答者の住んでいる地域に対する満足度の中で、満足度が高かった項目は、「日用品の買い物の便利さ」（満足とやや満足の合計が約51%）、「住宅周辺環境の快適性」（同約51%）、「公害の少なさ」（同約43%）であった。

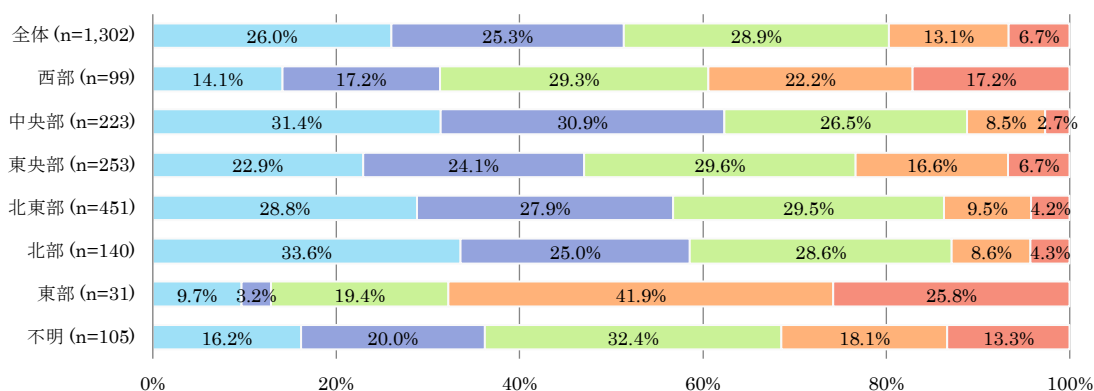
一方、不満の割合が高かった項目は、「空き家・空き地の管理状況」（やや不満と不満の合計が約48%）、「公共交通機関の利便性」（同約44%）、「高齢者や障がい者のためのバリアフリー化」（同約38%）であった。



《参考：地区別集計》

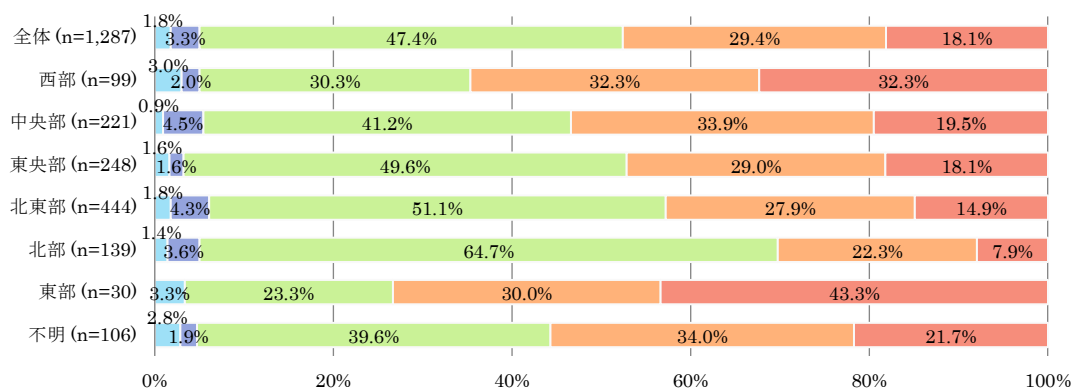
「日用品の買い物の便利さ」について、地区別では、東部地区におけるやや不満と不満の合計が約68%と最も多く、次いで西部地区においては同約39%と、全体の同約20%を大きく上回った。

日用品の買い物の便利さ



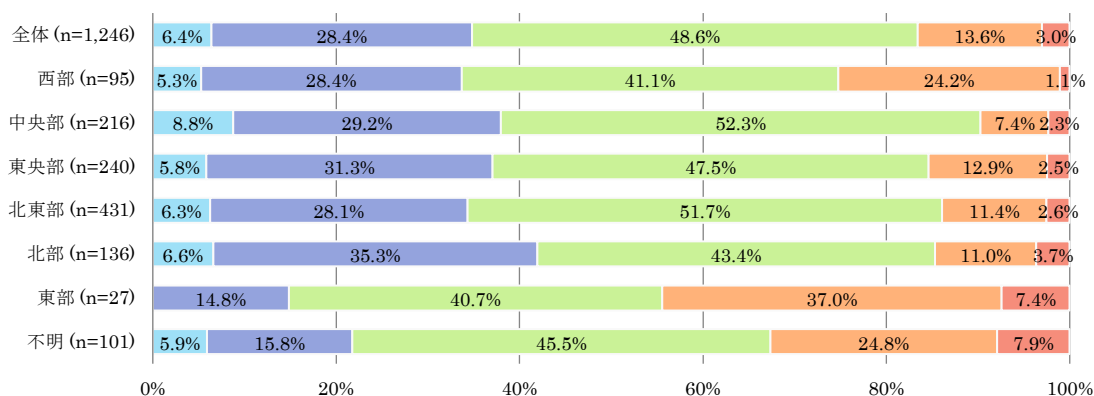
「空き家・空き地の管理状況」について、地区別では、西部地区でやや不満と不満の合計が約65%、中央部地区で同約53.4%、東中部で同約47.1%、北東部で同約42.8%、北部で同約30.2%となっており、西部地区から北部地区にかけて割合が減少するという結果であった一方で、東部地区では同約73.3%と全体の同約48%を大きく上回った。

空き家・空き地の管理状況



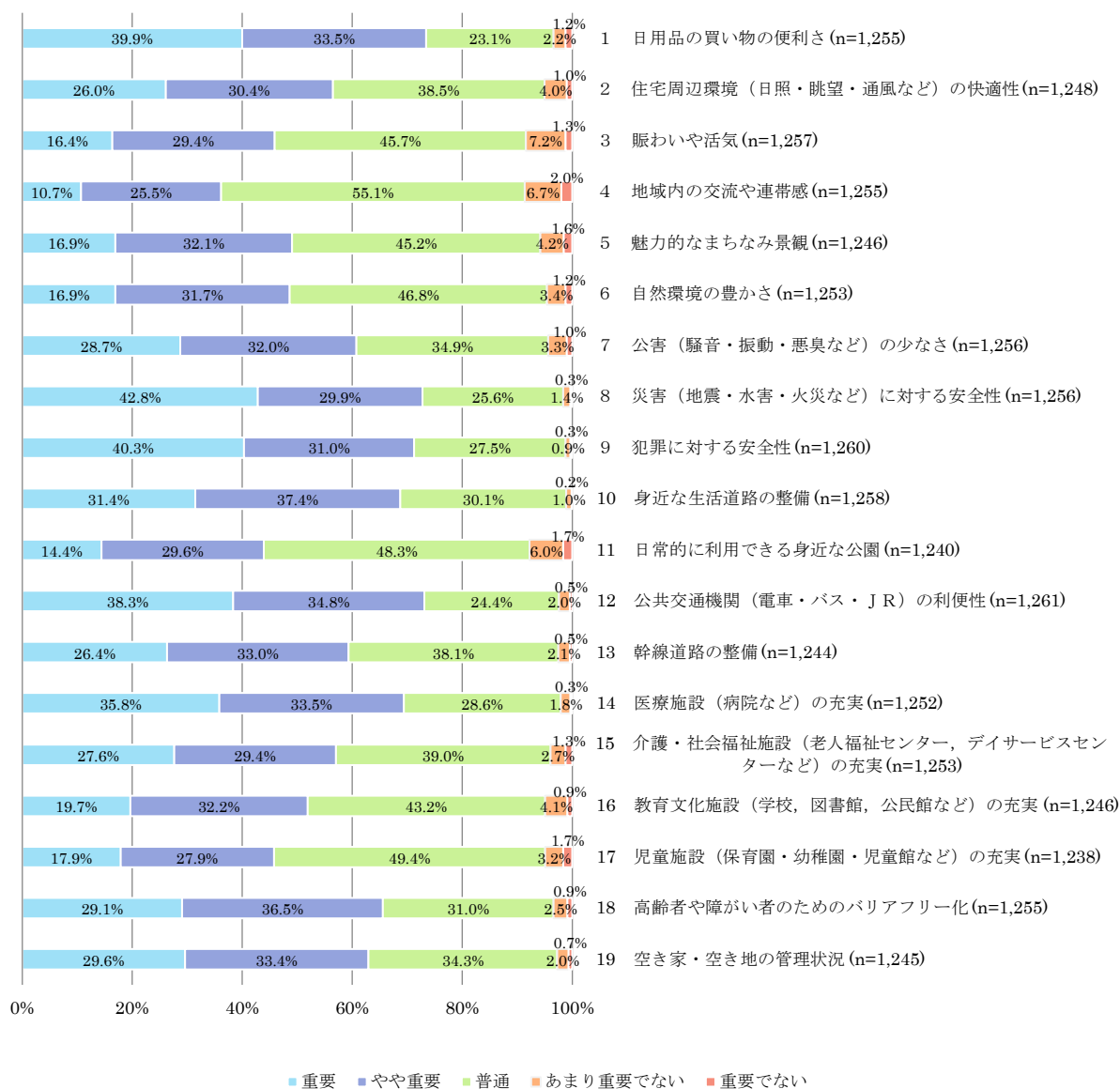
「総合的にふまえたうえでの暮らしやすさ」について、地区別では、東部地区におけるやや不満と不満の合計が約44%、西部地区においては同約25%となった一方で、中央部地区においては同約10%にとどまるなど、地区によって大きな差があった。

上記を総合的にふまえたうえでの暮らしやすさ



(2) 地域における今後の重要度（問1）

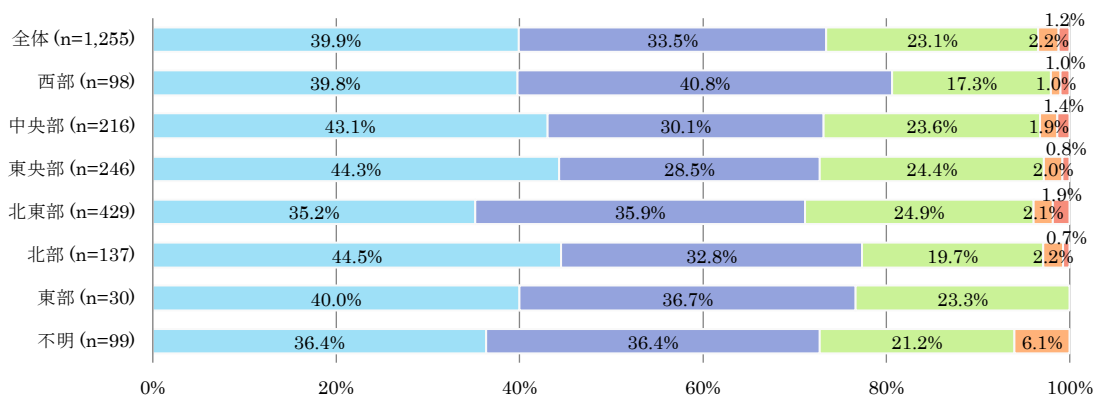
上記 1～19のうち、今後の重要度が高かった項目としては、「日用品の買い物の便利さ」（重要とやや重要の合計が約74%）、「災害に対する安全性」と「公共交通機関の利便性」（同約73%）、「犯罪に対する安全性」（同約71%）、「医療施設の充実」（同約69%）であった。



《参考：地区別集計》

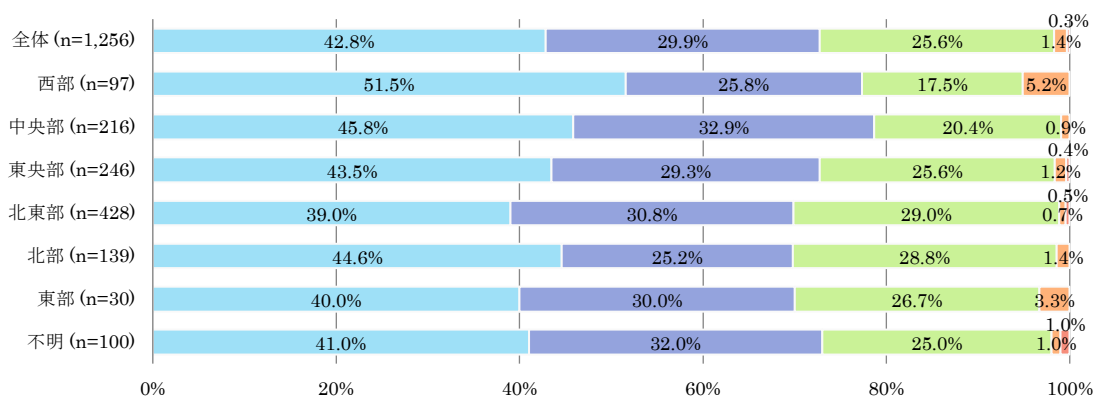
「日用品の買い物の便利さ」について、地区別では、西部地区における重要とやや重要な合計が約81%，次いで北部地区および東部地区においては同約77%と、全体の同約73%を上回った。

日用品の買い物の便利さ



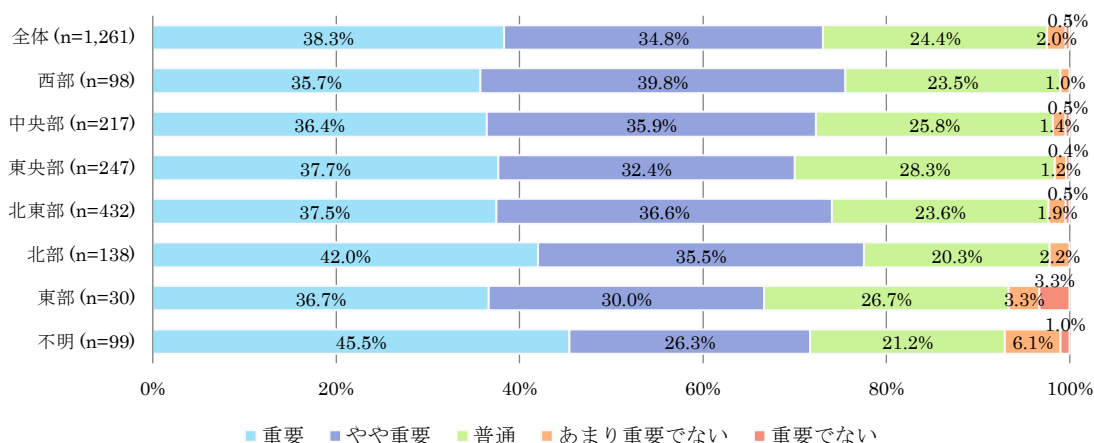
「災害に対する安全性」について、地区別では、中央部地区における重要とやや重要な合計が約79%，次いで西部地区においては同約77%と、全体の同約73%を上回った。

災害（地震・水害・火災など）に対する安全性



「公共交通機関の利便性」について、地区別では、北部地区における重要とやや重要な合計が約78%，西部地区においては同約76%となった一方で、東部地区においては同約67%にとどまるなど、地区によって大きな差があった。

公共交通機関（電車・バス・JR）の利便性



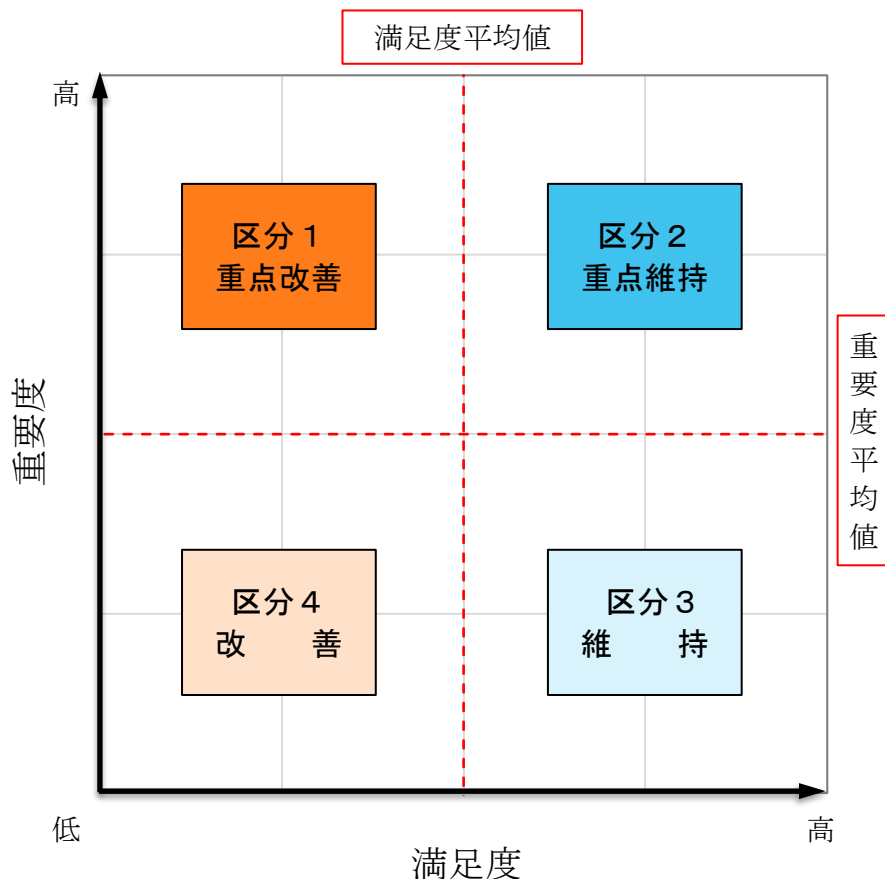
(3) 地域における満足度と重要度の評価（問1）

【満足度と重要度の評価方法】

各項目について、評価の高い方から順に点数化して、各評価の回答数に点数を乗じて合算したものを有効回答数で除して評価点数を算出し、次に満足度と重要度の評価点数の平均値を算出した。

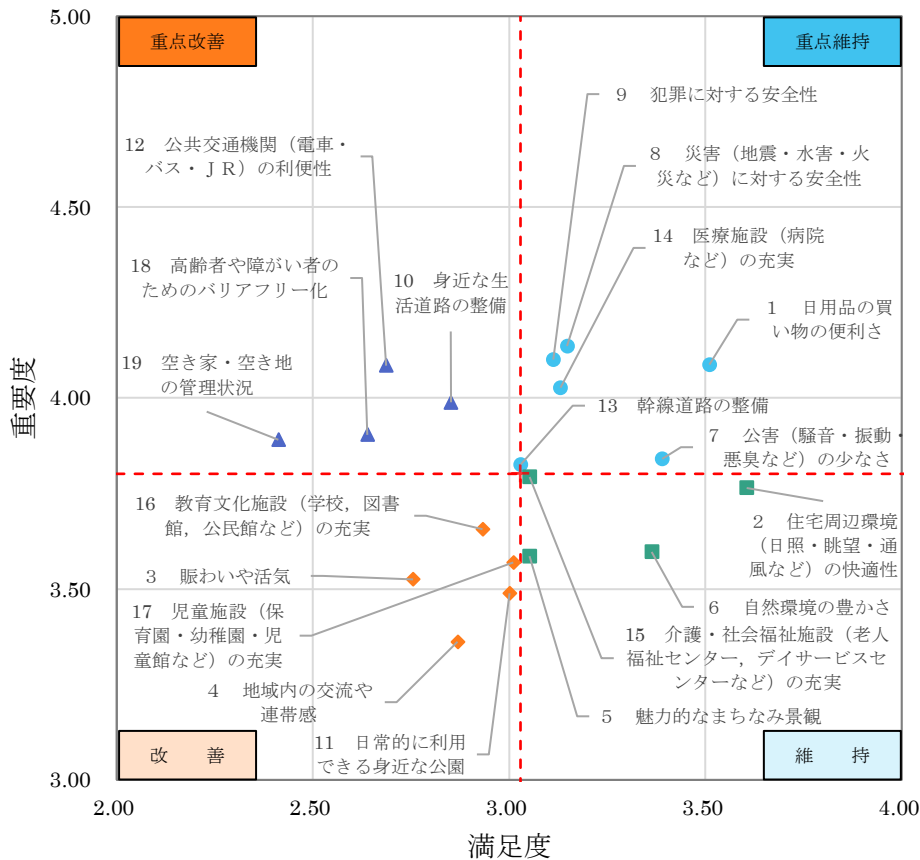
横軸を満足度、縦軸を重要度とした散布図を作成し、評価点数と平均値を比較することで、次の4つの区分に分類される。

- 区分1（満足度：低，重要度：高）
重点的に改善していくべきと考えられる重点改善分野
- 区分2（満足度：高，重要度：高）
引き続き優先的に維持していくべきと考えられる重点維持分野
- 区分3（満足度：高，重要度：低）
優先度は低いですが、現状を維持していくべきと考えられる維持分野
- 区分4（満足度：低，重要度：低）
優先度は低いですが、改善を検討していくべきと考えられる改善分野



居住地域の満足度・重要度を評価した結果を下図に示す。

居住地域の満足度・重要度評価



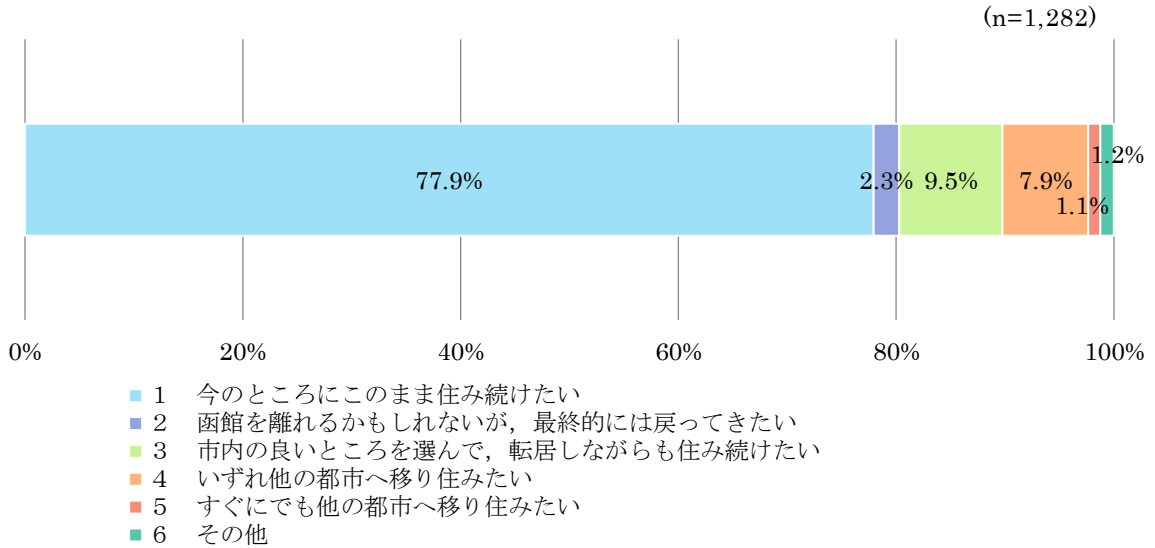
【満足度と重要度の評価結果】

- 重点改善分野 (満足度：低, 重要度：高)**
 「公共交通機関の利便性」, 「身近な生活道路の整備」, 「高齢者や障がい者のためのバリアフリー化」, 「空き家・空き地の管理状況」となっている。
- 重点維持分野 (満足度：高, 重要度：高)**
 「日用品の買い物の便利さ」, 「災害に対する安全性」, 「医療施設の充実」などとなっている。
- 維持分野 (満足度：高, 重要度：低)**
 「介護・社会福祉施設の充実」, 「住宅周辺環境の快適性」, 「自然環境の豊かさ」, 「魅力的なまちなみ景観」となっている。
- 改善分野 (満足度：低, 重要度：低)**
 「教育文化施設の充実」, 「児童施設の充実」, 「賑わいや活気」などとなっている。

2 函館市民の定住意識について

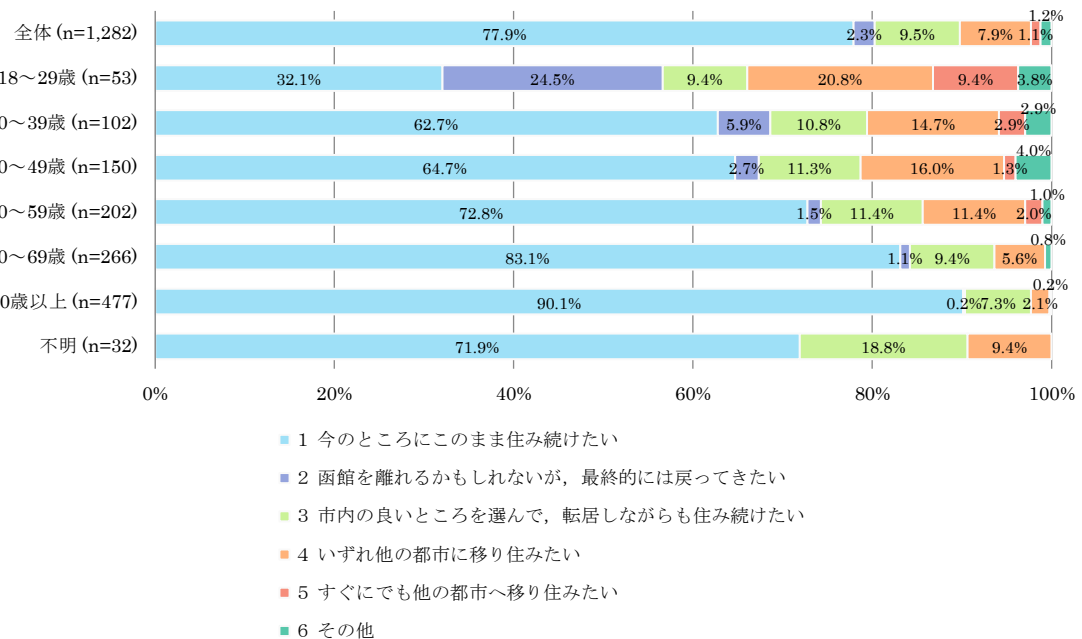
(1) 函館に住み続けることについて（問2）

「今のところにこのまま住みたい」が約78%と大半を占め、次いで「市内の良いところを選んで、転居しながらも住みたい」が約10%を占めており、今後も函館に住み続けたいとする者の割合が約87%と大多数を占めている。



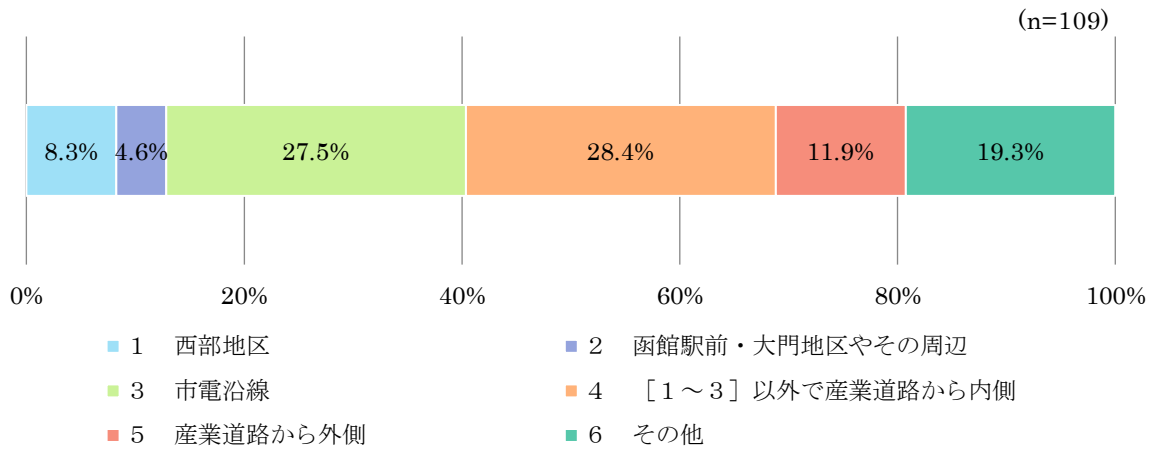
《参考：年代別集計》

年代別では、年代が上昇するにつれ、「今のところにこのまま住みたい」の割合が増加するという結果であった。



(2) 市内で転居する場合の行き先（問2-a①）

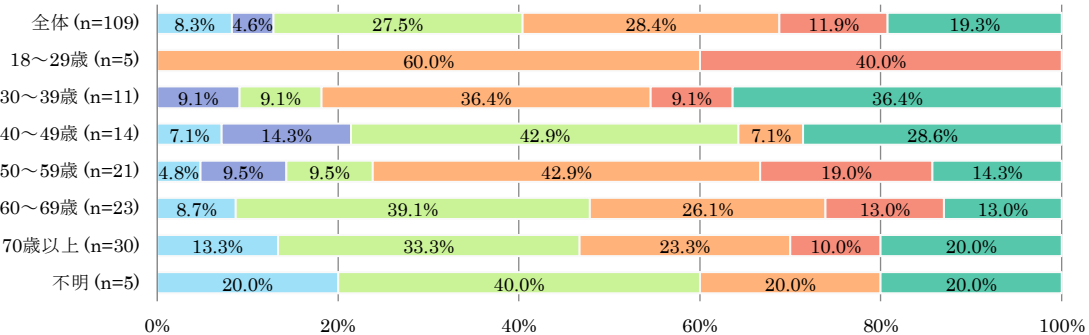
「産業道路から内側」と「市電沿線」が約28%を占める一方で、「函館駅前・大門地区やその周辺」は約5%にとどまった。



《参考：年代別集計・居住形態別集計》

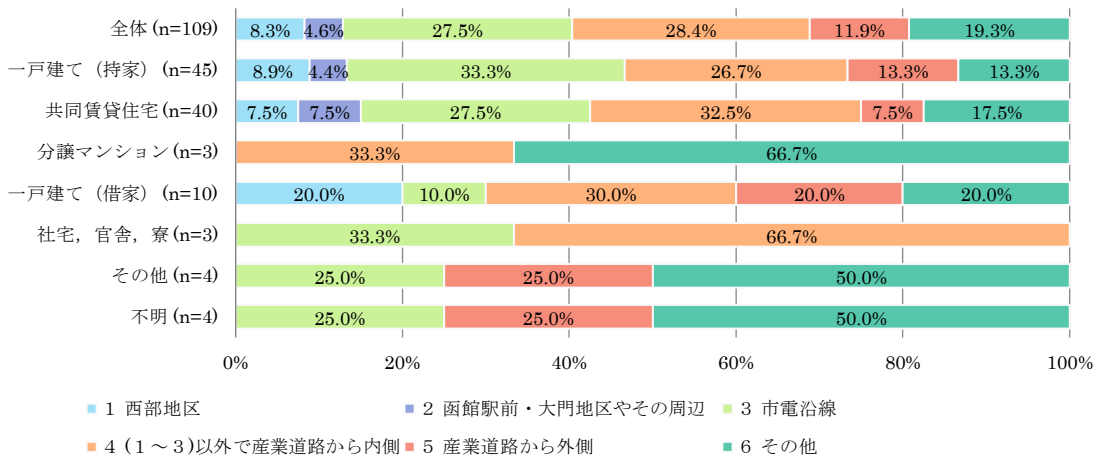
年代別では、「市電沿線」について、40歳代で約43%、60歳代で約39%、70歳以上で約33%と、全体の約28%を上回った。

また、「函館駅前・大門地区やその周辺」について、30歳代で約9%、40歳代で約14%、50歳代で約10%となった。



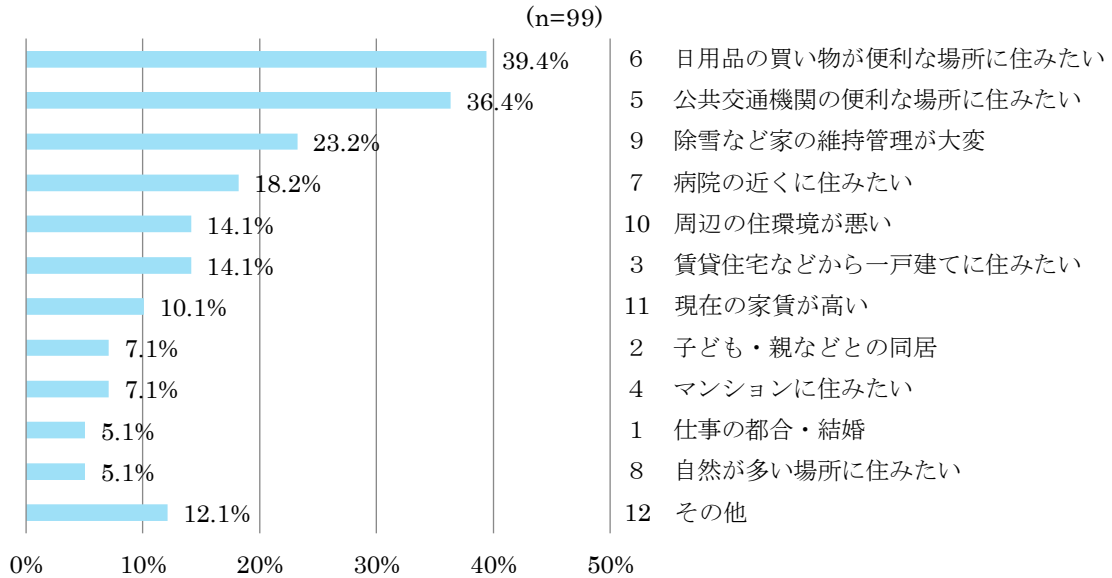
居住形態別では、「西部地区」について、一戸建て（借家）で約20%、一戸建て（持家）で約9%、共同賃貸住宅で約8%となった。

また、「産業道路から外側」について、一戸建て（借家）で約20%と全体の約12%を上回った一方で、共同賃貸住宅で約8%と、全体を下回った。



(3) 転居したい理由 (問2-a②) 【2つまで選択】

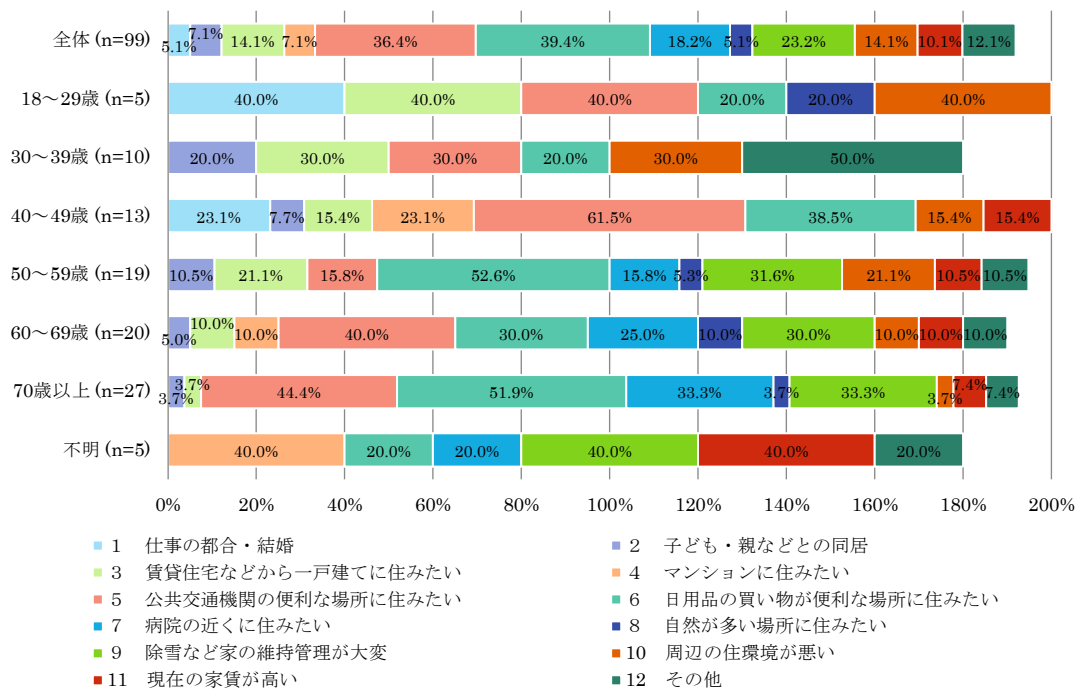
「日用品の買い物が便利な場所に住みたい」が約39%、「公共交通機関の便利な場所に住みたい」が約36%、「除雪など家の維持管理が大変」が約23%であった。



《参考：年代別集計》

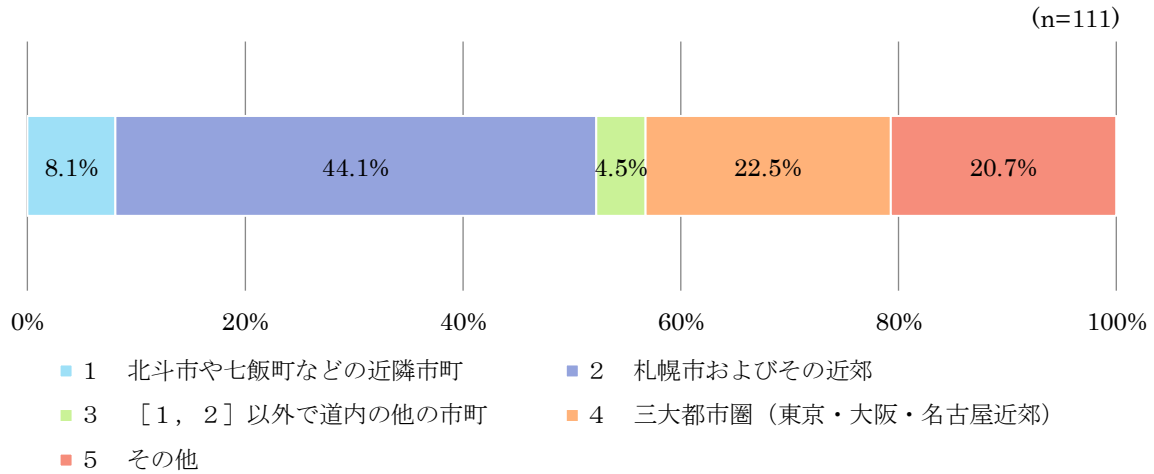
年代別では、「公共交通機関の便利な場所に住みたい」について、40歳代で約62%、70歳以上で約44%、18～20歳代と60歳代で約40%と、全体の約36%を上回った。

また、「日用品の買い物が便利な場所に住みたい」について、50歳代で約53%、70歳以上で約52%と、全体の約39%を大きく上回った。



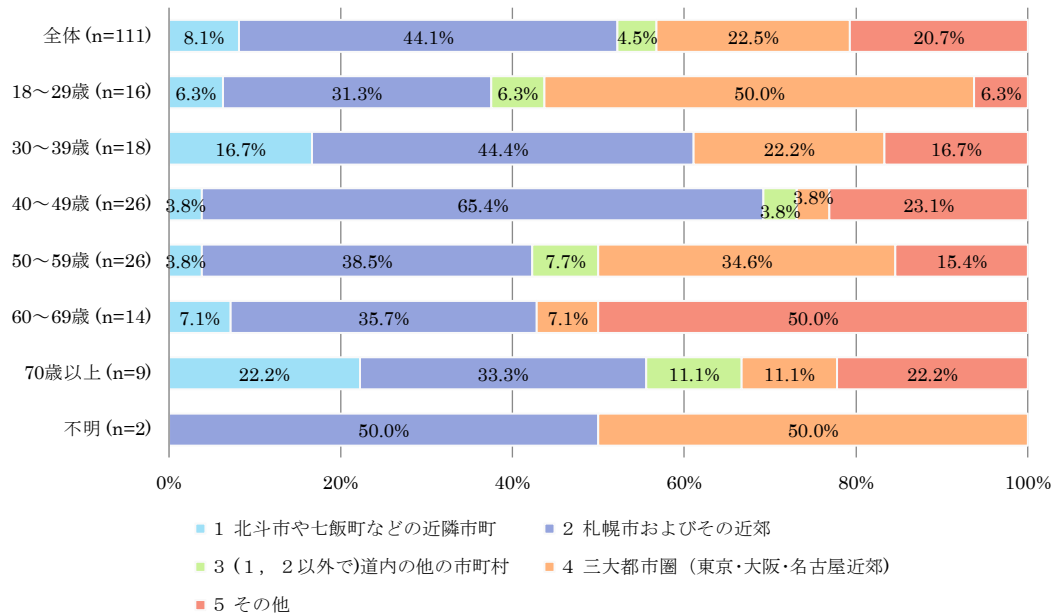
(4) 市外へ転居する場合の行き先（問2－b①）

「札幌市およびその近郊」が約44%、「三大都市圏」が約21%であった。



《参考：年代別集計》

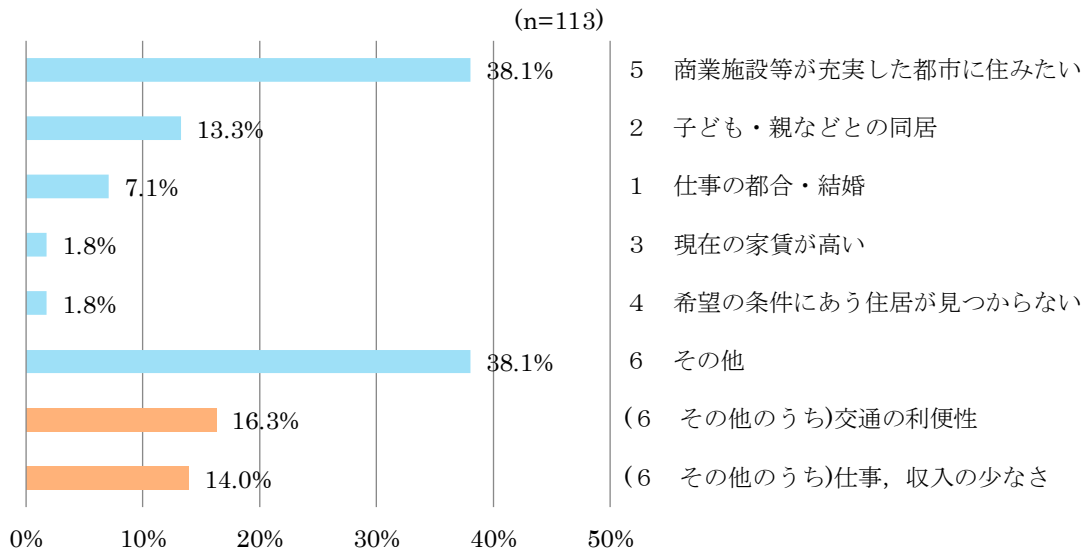
年代別では、18～29歳代において、「三大都市圏」が約50%と、全体の約23%を大きく上回った。30歳代では、「北斗市や七飯町などの近隣市町」が約17%と、全体の約8%を大きく上回った。40歳代では、「札幌市およびその近郊」が約65%と全体の約44%を大きく上回った。50歳代では、「三大都市圏」が約35%と、全体の約23%を上回った。60歳代では、「北斗市や七飯町などの近隣市町」が約22%と全体の約8%を大きく上回るとともに、「道内の他の市町村」が約11%と、全体の約5%を上回った。



(5) 函館を離れたい理由（問2-b②）

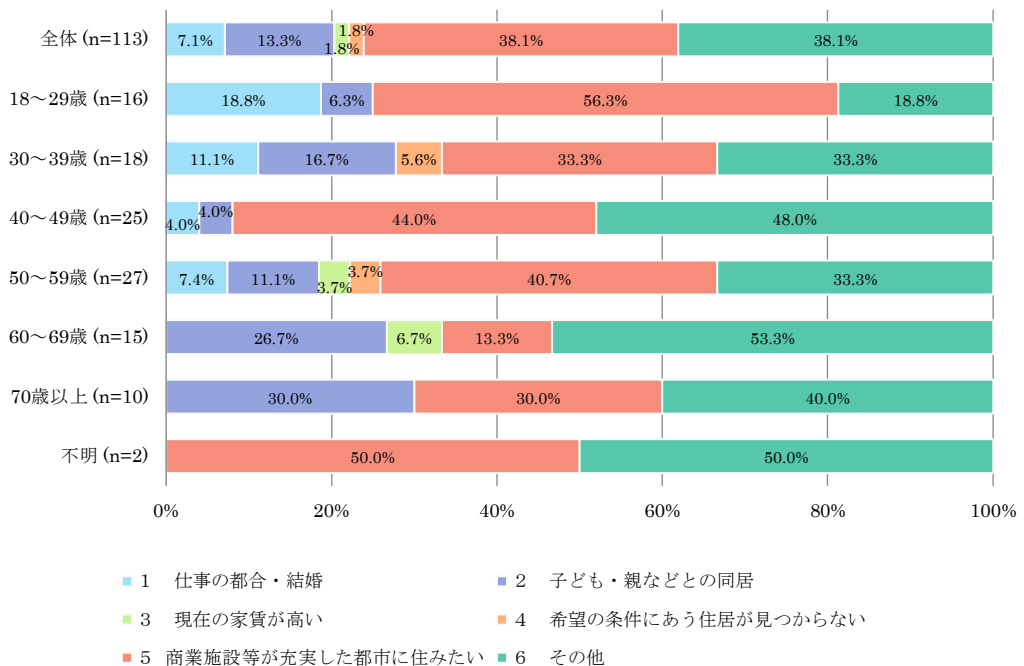
「商業施設等が充実した都市に住みたい」と「その他」が約38%、「子ども・親などとの同居」が約13%であった。

「その他」のうち、「交通の利便性」に関する記載があったのは約16%、「仕事、収入の少なさ」に関する記載があったのは約14%であった。



《参考：年代別集計》

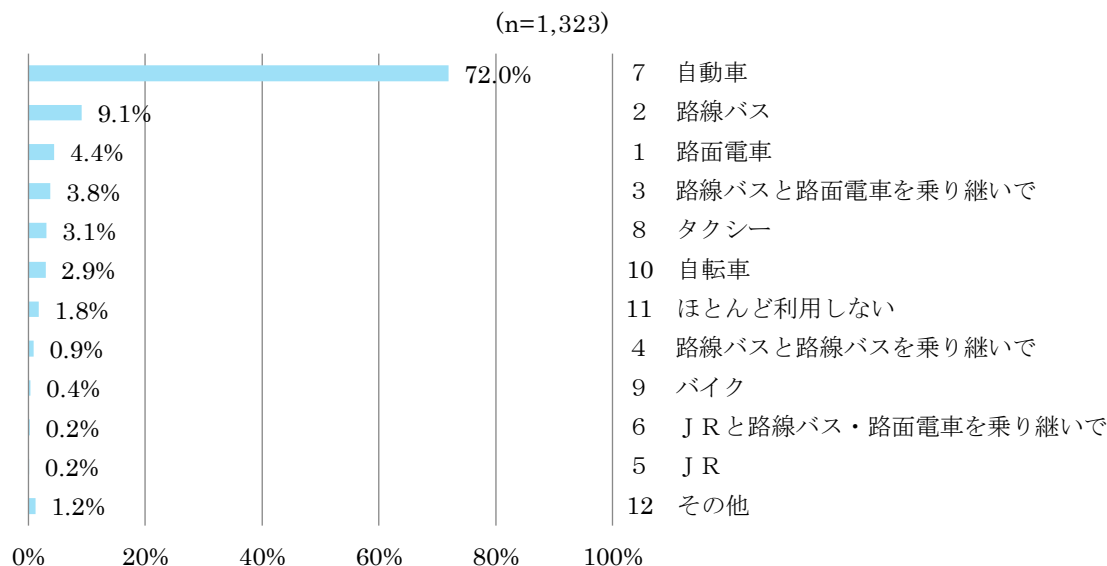
年代別では、18～20歳代と30歳代では、「仕事の都合・結婚」が、それぞれ約19%、約11%と、全体の約7%を大きく上回った。
18～20歳代、40歳代、50歳代において、「商業施設等が充実した都市に住みたい」が、それぞれ約56%、約44%、約41%と、全体の約38%を上回った。



3 普段の交通手段について

(1) 日常的に利用している交通手段（問3）

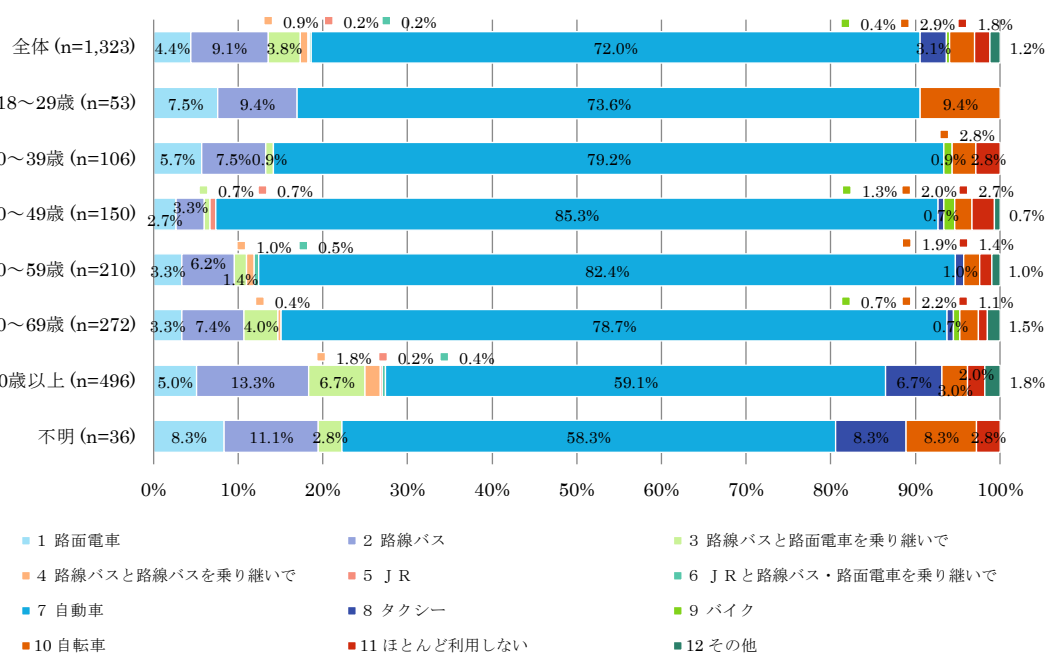
「自動車」が約72%と大半を占め、次いで「路線バス」が約9%、「路面電車」が約4%であった。



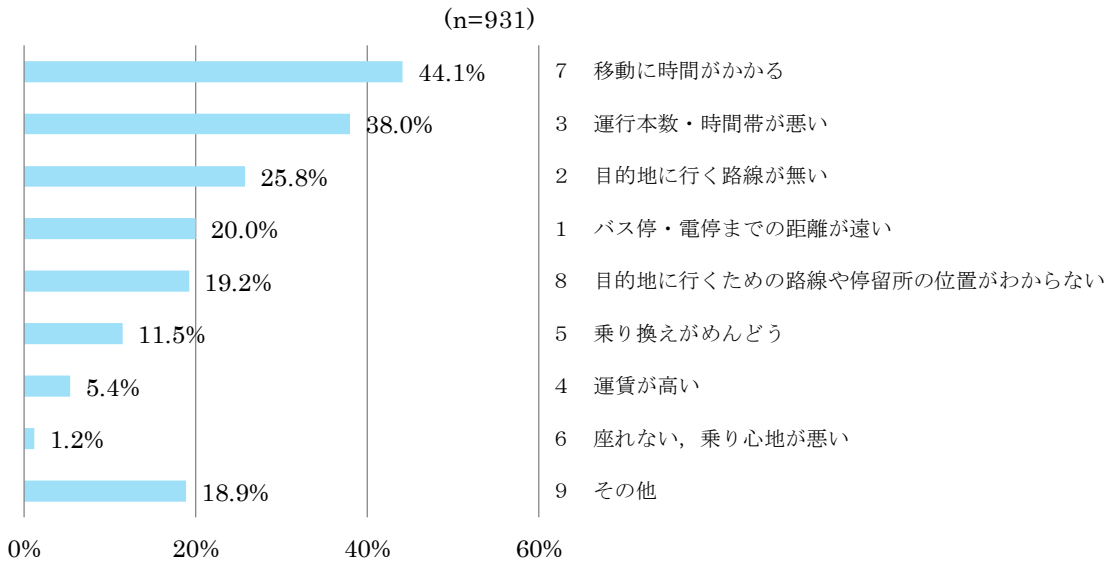
《参考：年代別集計》

年代別では、20歳代未満から40歳代までは、年代が上昇するにつれ、「自動車」の割合が増加し、40歳代が約85%と全体で最も割合が高く、さらに年代が上昇すると、「自動車」の割合は減少していき、「路面電車」や「路線バス」などの公共交通機関の割合が増加するという結果であった。

特に70歳以上では、「自動車」が約59%と、全体の同約72%を大きく下回る一方で、「路面電車」が約5%、「路線バス」が約13%、「路線バスと路面電車を乗り継いで」が約7%など、公共交通機関が大きな割合を占める結果であった。

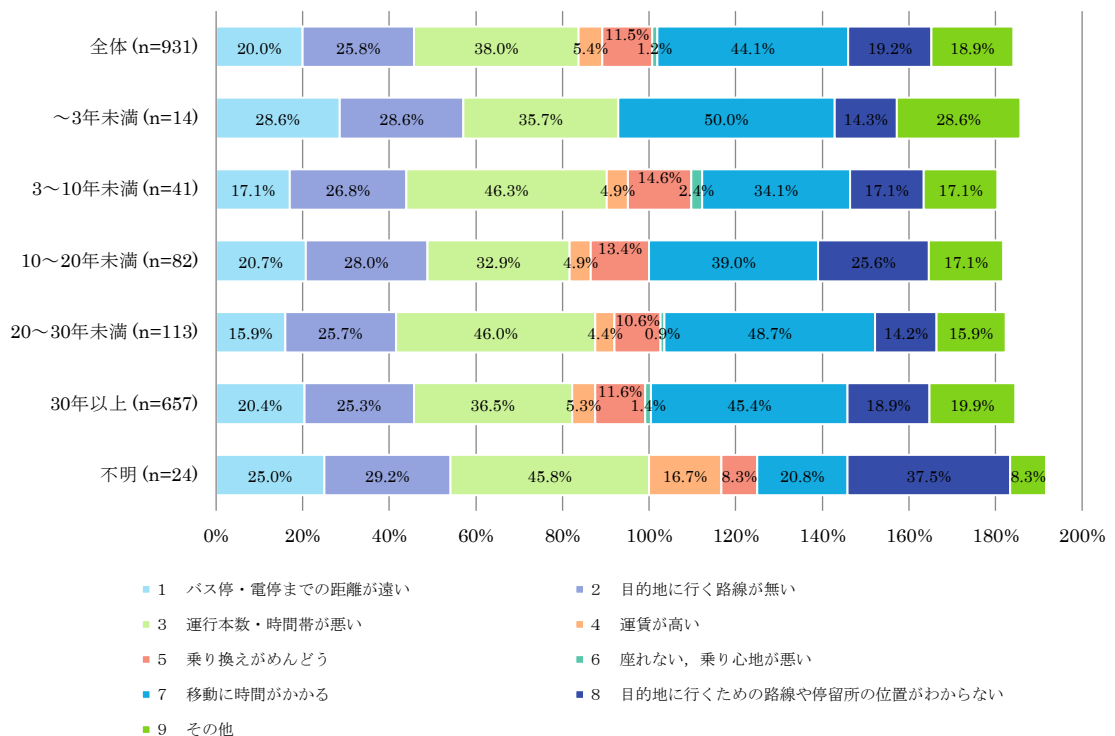


(2) 自動車利用者が公共交通機関を利用しない理由（問3-a）【2つまで選択】
「移動に時間がかかる」が約44%、「運行本数・時間帯が悪い」が約38%、「目的地に行く路線が無い」が約26%であった。



《参考：居住期間別集計》

居住期間別では、10～20年未満において、「目的地に行くための路線や停留所の位置がわからない」が、約26%と全体の約19%を上回る一方で、「運行本数・時間帯が悪い」が約33%、「移動に時間がかかる」が約39%と、全体のそれぞれ約38%、約44%を下回った。

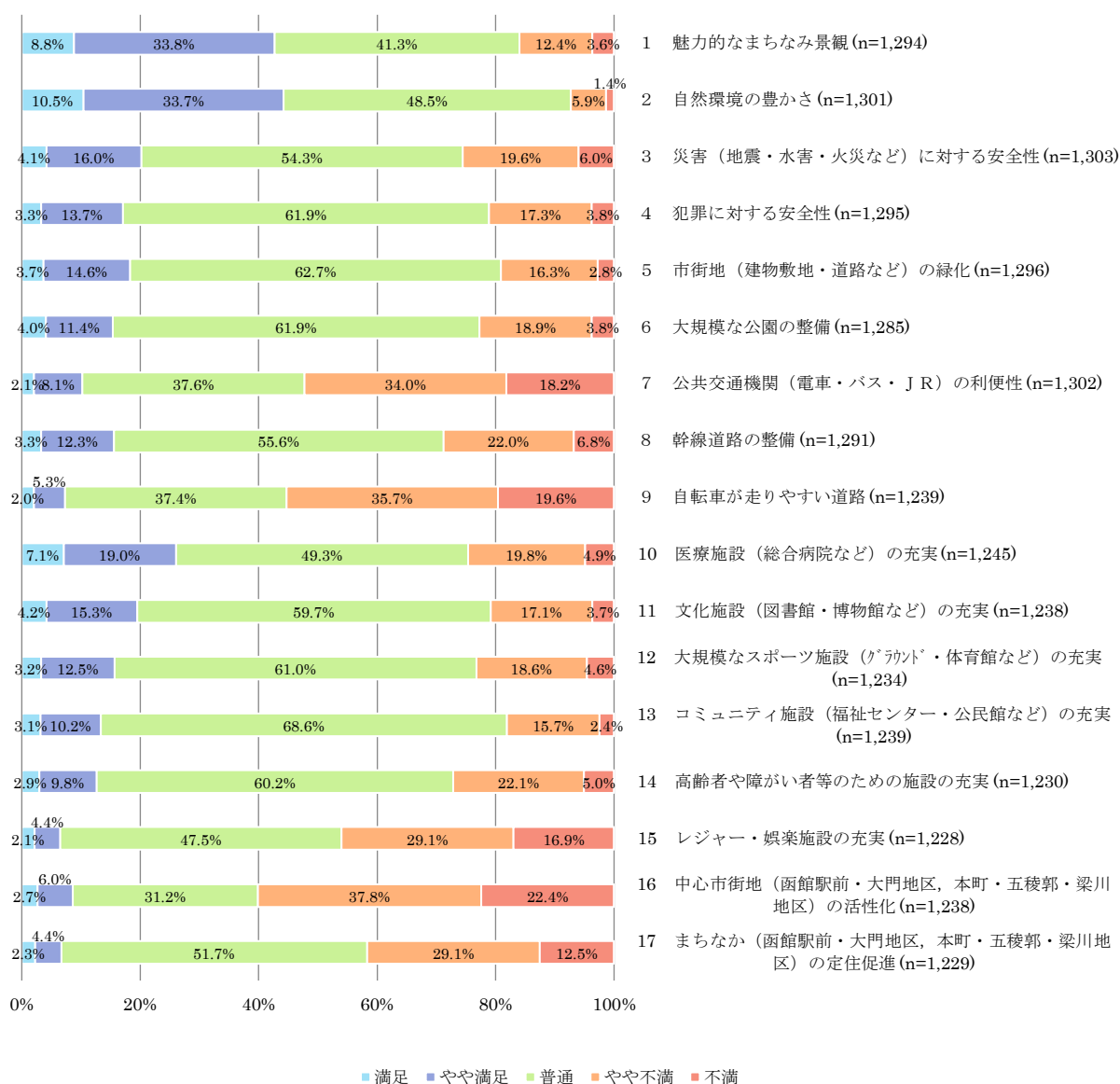


4 函館市の都市づくりについて

(1) 函館市全体に対する満足度（問4）

函館市全体の都市づくりにおいて満足度が高かった項目は、「自然環境の豊かさ」(満足とやや満足の合計が約44%)、「魅力的なまちなみ景観」(同約43%)、「医療施設の充実」(同約26%)であった。

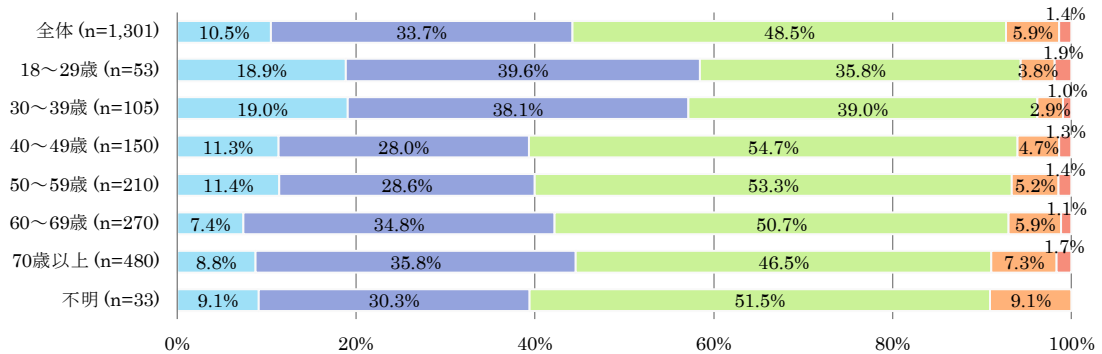
一方、不満の割合が高かった項目は、「中心市街地の活性化」(やや不満と不満の合計が約60%)、「自転車走りやすい道路」(同約55%)、「公共交通機関の利便性」(同約52%)、「レジャー・娯楽施設の充実」(同約46%)、「まちなかの定住促進」(同約42%)であった。



《参考：年代別集計》

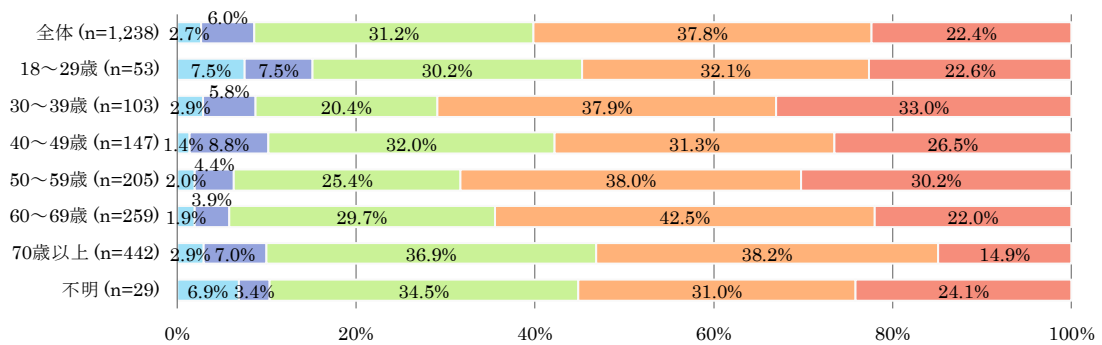
「自然環境の豊かさ」について、年代別では、20歳代未満と30歳代は、満足とやや満足の合計が60%程度と、全体の同約44%を大きく上回った。

自然環境の豊かさ



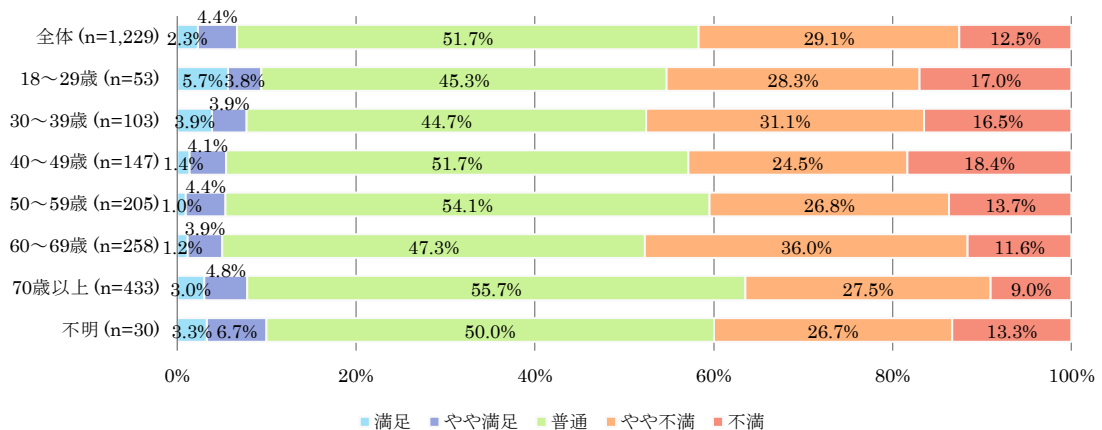
「中心市街地の活性化」について、年代別では、やや不満と不満の合計が最も高かった30歳代は約71%である一方で、最も低かった70歳以上で同約53%と、年代によって大きな差があった。

中心市街地（函館駅前・大門地区、
本町・五稜郭・梁川地区）の活性化



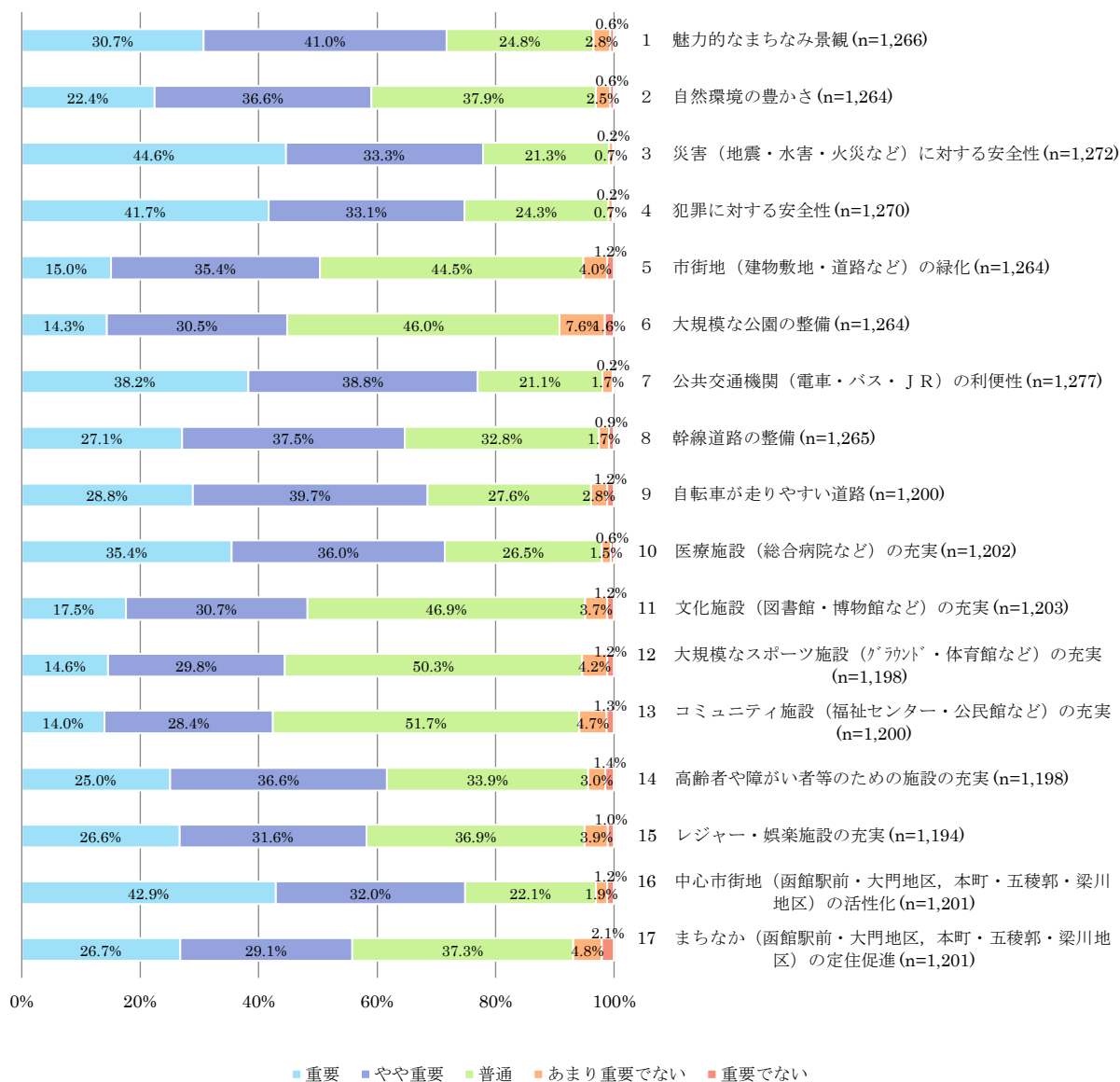
「まちなかの定住促進」について、年代別では、やや不満と不満の合計が最も高かった30歳代と、60歳代は約48%である一方で、最も低かった70歳代で同約37%と、年代によって差があった。

まちなか（函館駅前・大門地区、
本町・五稜郭・梁川地区）の定住促進



(2) 函館市全体における今後の重要度（問4）

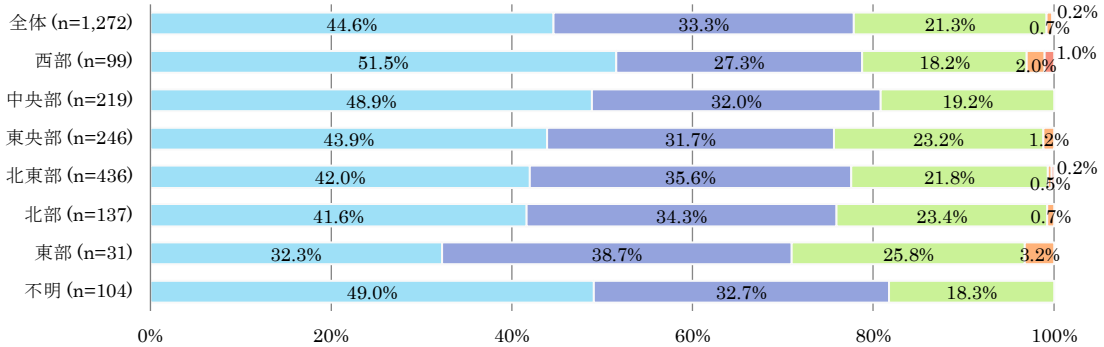
上記1～17のうち、今後の重要度が高かった項目としては、「災害に対する安全性」（重要とやや重要の合計が約78%）、「公共交通機関の利便性」（同約77%）、「犯罪に対する安全性」（同約75%）、「魅力的なまちなみ景観」（同約72%）、「医療施設の充実」（同約71%）であった。



《参考：地区別集計》

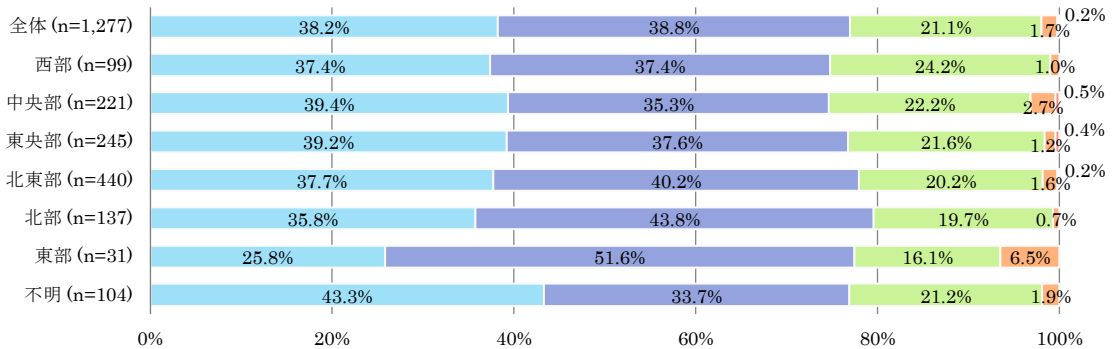
「災害に対する安全性」について、地区別では、中央部地区における重要とやや重要な合計が約81%、西部地区においては同約79%となった一方で、東部地区では同約71%と、地区によって差があった。

災害（地震・水害・火災など）に対する安全性



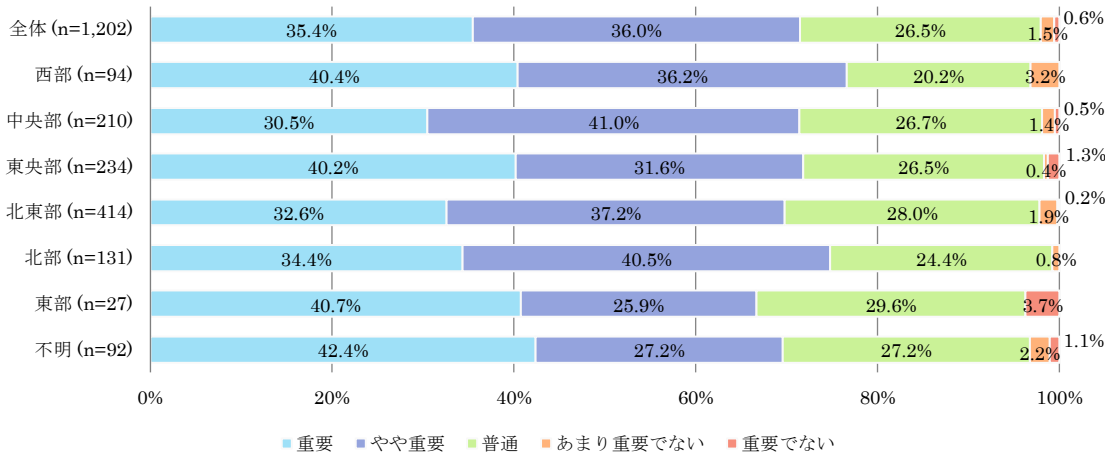
「公共交通機関の利便性」について、地区別では、北部地区における重要とやや重要な合計が約80%となった一方で、最も低かった中央部地区でも同約75%と、地区による差があまりなかった。

公共交通機関（電車・バス・JR）の利便性



「医療施設の充実」について、地区別では、西部地区における重要とやや重要な合計が約77%、北部地区においては同約75%となった一方で、東部地区では同約66%と、地区によって差があった。

医療施設（総合病院など）の充実

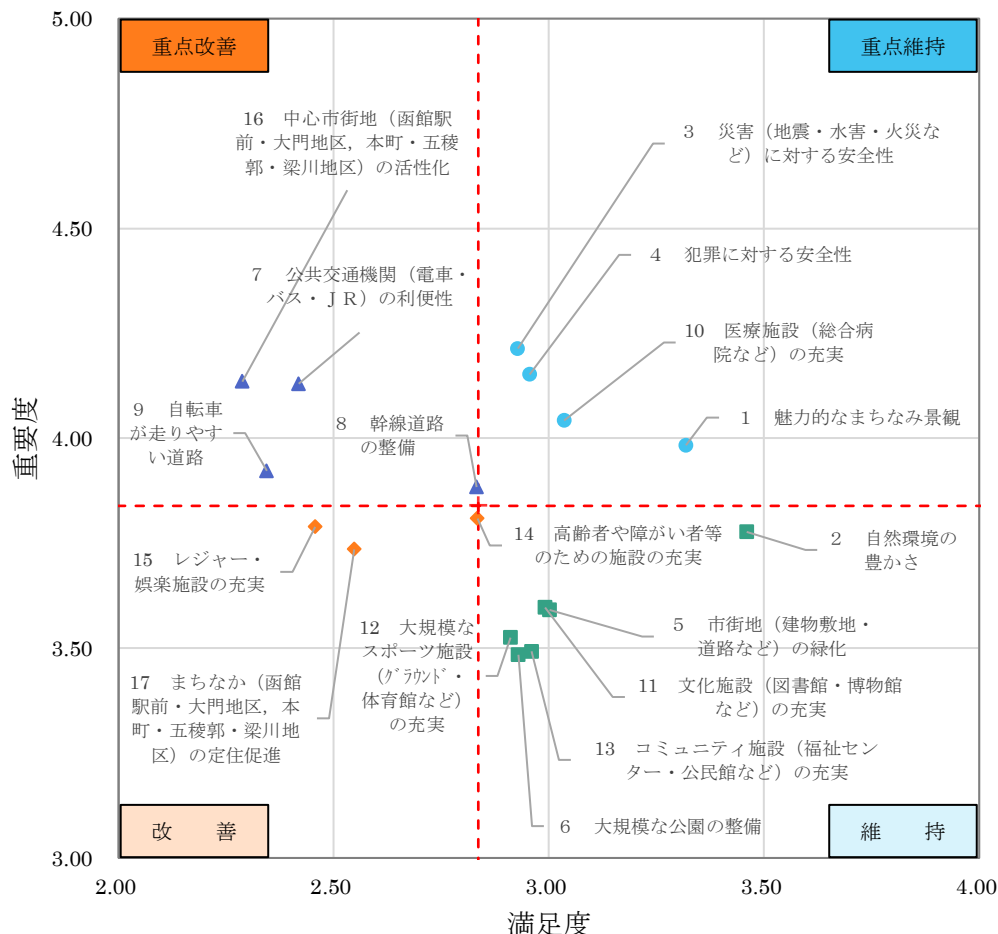


(3) 函館市全体における満足度と重要度の評価（問4）

函館市全体の満足度・重要度を評価した結果を下図に示す。

※評価方法については、Ⅲ－1(3)（9ページ）を参照

市全体の満足度・重要度評価

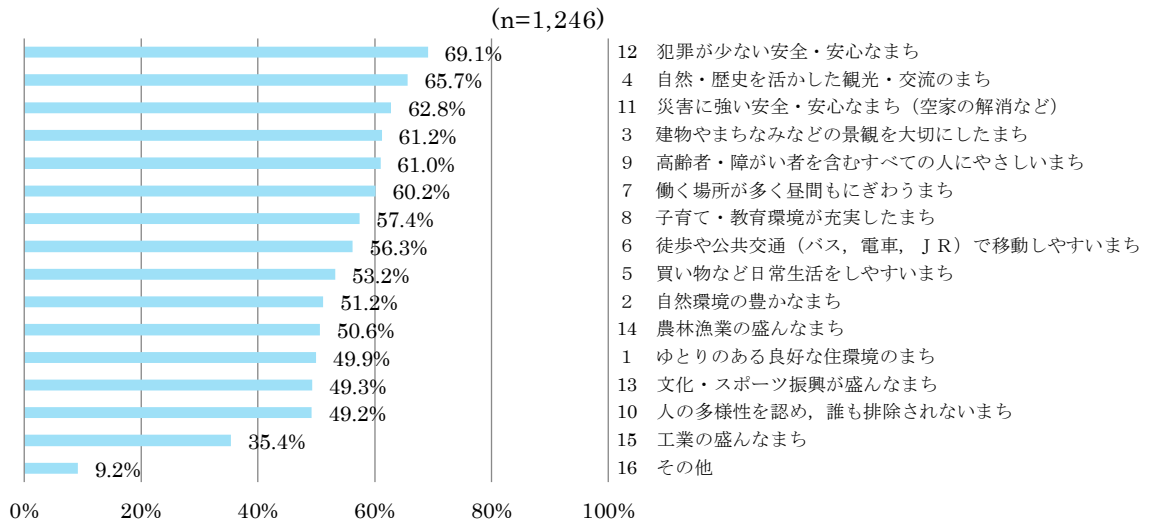


【満足度と重要度の評価結果】

- 重点改善分野（満足度：低，重要度：高）**
 「公共交通機関の利便性」，「中心市街地の活性化」，「自転車が走りやすい道路」，「幹線道路の整備」となっている。
- 重点維持分野（満足度：高，重要度：高）**
 「魅力的なまちなみ景観」，「災害に対する安全性」，「犯罪に対する安全性」，「医療施設の充実」となっている。
- 維持分野（満足度：高，重要度：低）**
 「自然環境の豊かさ」，「市街地の緑化」，「文化施設の充実」，「大規模なスポーツ施設の充実」などとなっている。
- 改善分野（満足度：低，重要度：低）**
 「レジャー・娯楽施設の充実」，「高齢者や障がい者等のための施設の充実」，「まちなかの定住促進」となっている。

(3) 函館市全体に期待するまちのイメージ（問5） 【すべて選択】

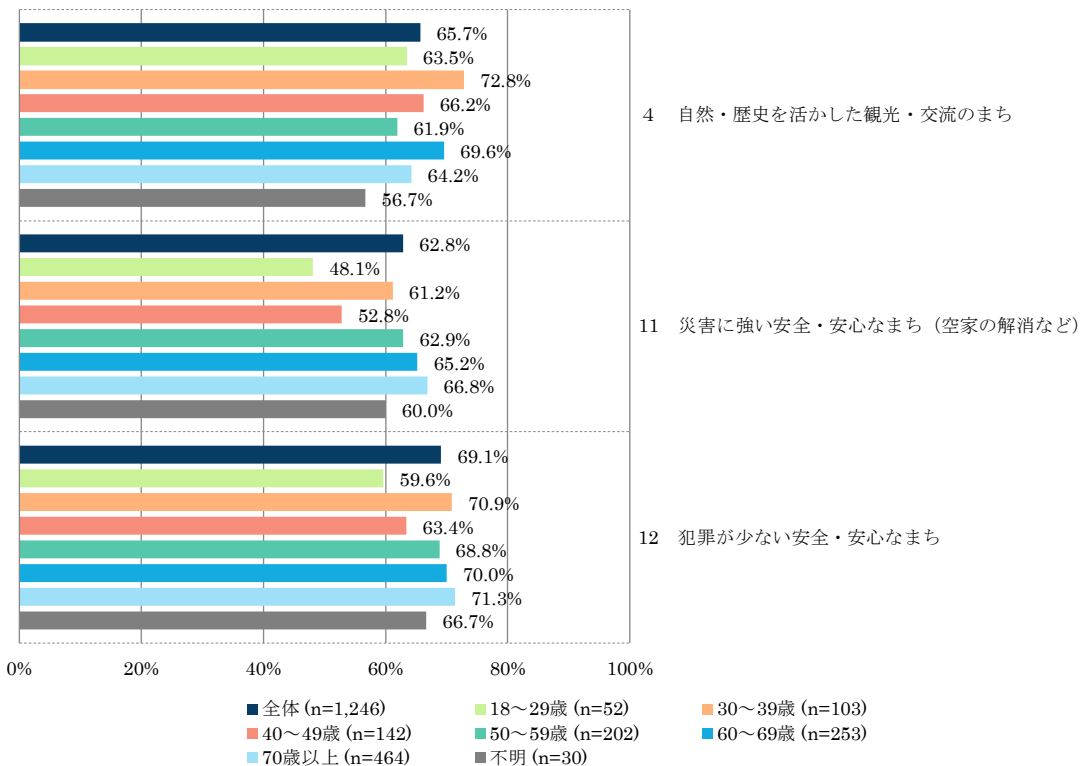
「犯罪が少ない安全・安心なまち」が約69%、「自然・歴史を活かした観光・交流のまち」が約66%、「災害に強い安全・安心なまち」が約63%であった。



《参考：年代別集計》

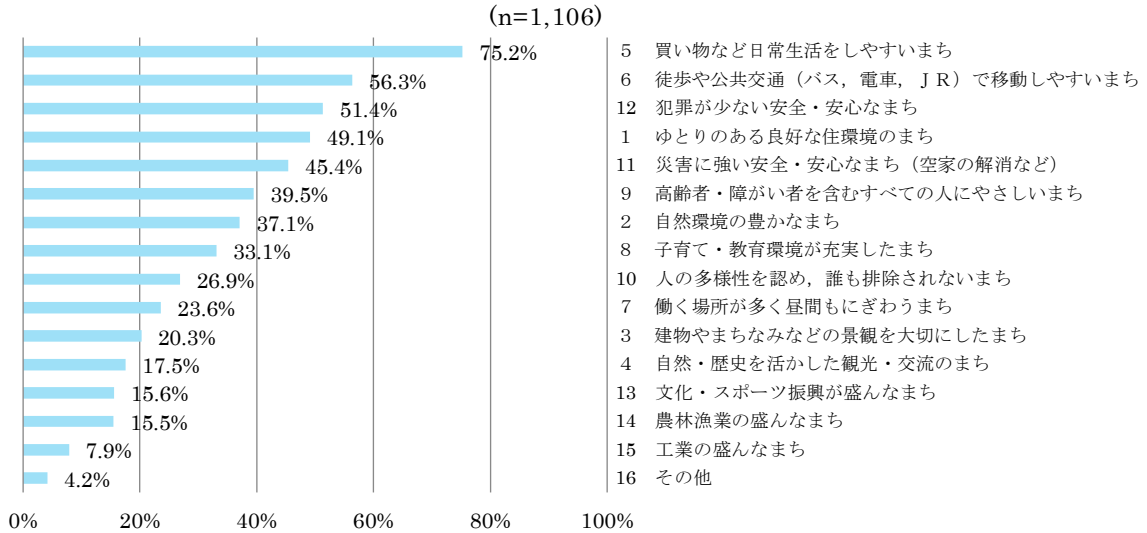
年代別では、「自然・歴史を活かした観光・交流のまち」について、30歳代が約73%と最も割合が高くなった一方で、50歳代が約62%と年代によって差があった。

また、「災害に強い安全・安心なまち」と「犯罪が少ない安全・安心なまち」について、30歳代を除いて、年代が上昇するにつれ、割合が増加するという結果であった。



(4) 住んでいる地域に期待するまちのイメージ（問5）【すべて選択】

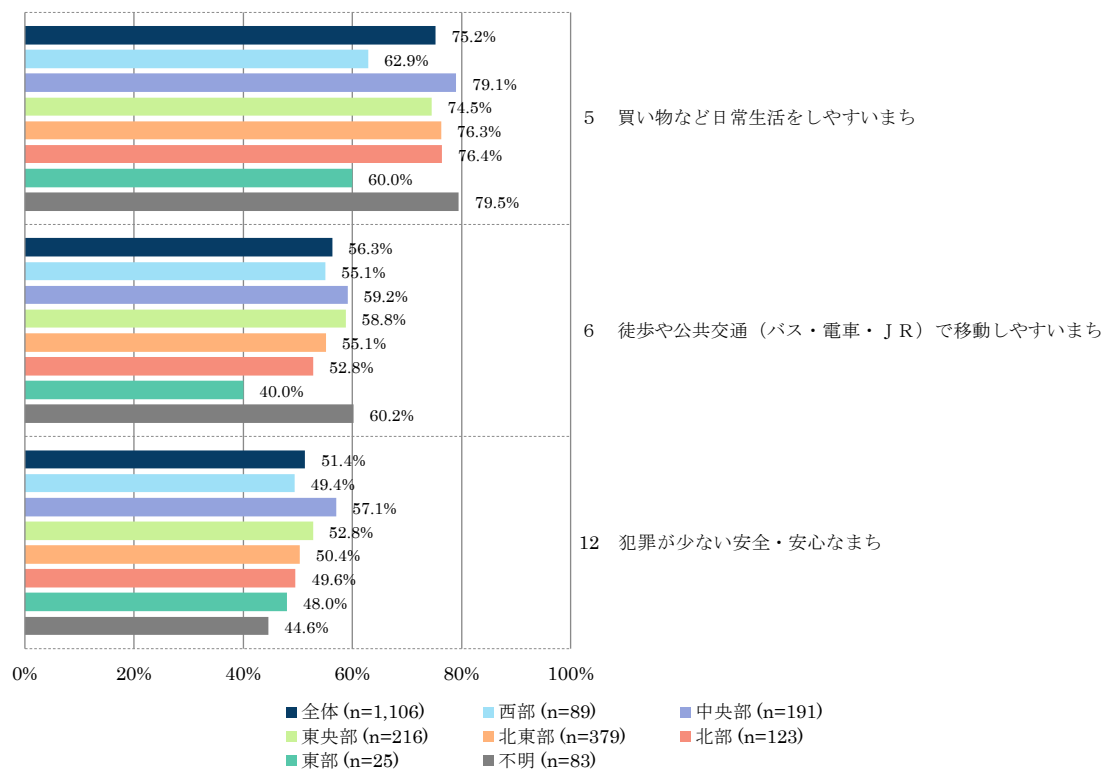
「買い物など日常生活をしやすいまち」が約75%、「徒歩や公共交通で移動しやすいまち」が約56%、「犯罪が少ない安全・安心なまち」が約51%であった。



《参考：地区別集計》

地区別では、「買い物など日常生活をしやすいまち」について、西部地区と東部地区が約60%程度と、全体の約75%を大きく下回った。

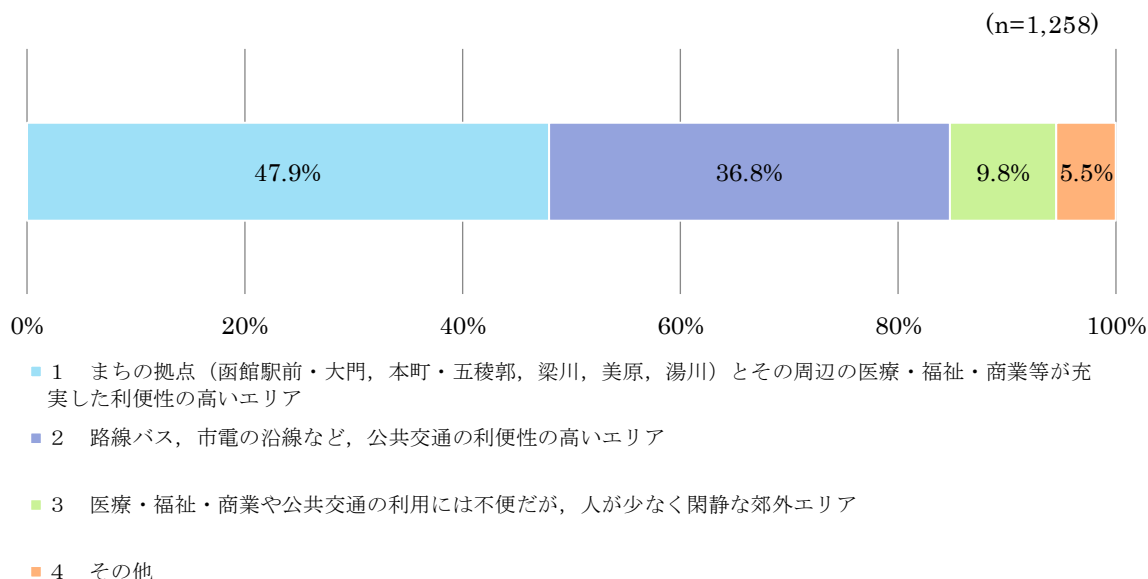
また、「徒歩や公共交通で移動しやすいまち」と「犯罪が少ない安全・安心なまち」について、中央部地区の割合が最も高く、東部地区にいくにつれ、割合が低下する結果となった。



5 まちなかの居住について

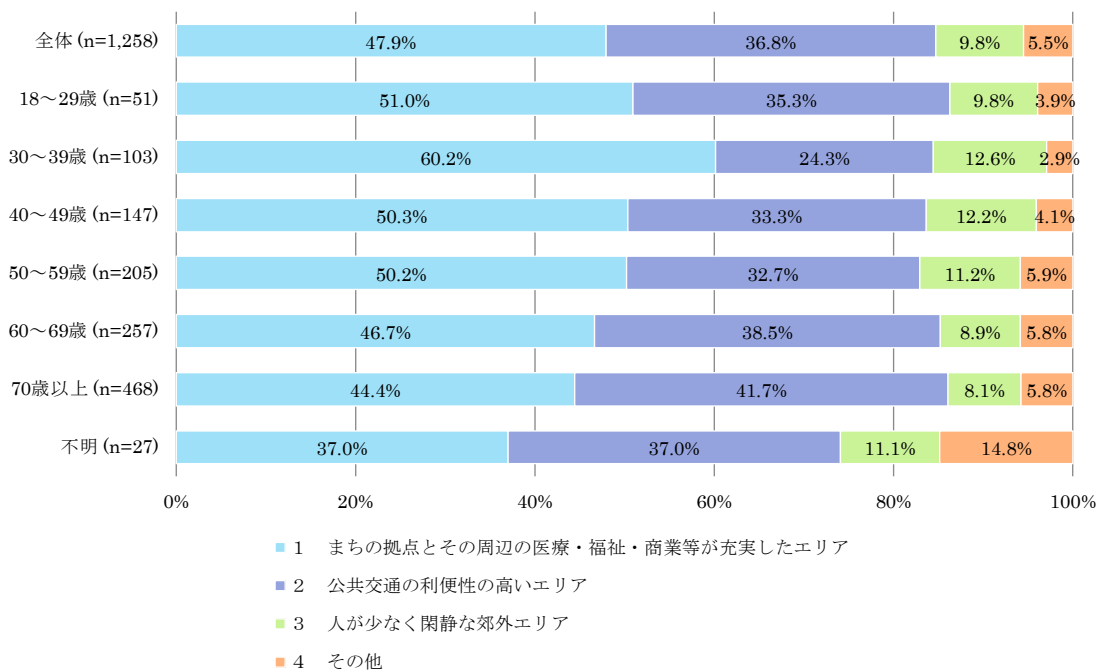
(1) 将来住みたいと思う居住環境（問6）

「まちの拠点とその周辺の医療・福祉・商業等が充実した利便性の高いエリア」が約48%、「路線バス、市電の沿線など、公共交通の利便性の高いエリア」が約37%となっており、まちの拠点・周辺および交通の利便性が高いエリアが約85%と大半を占めている。



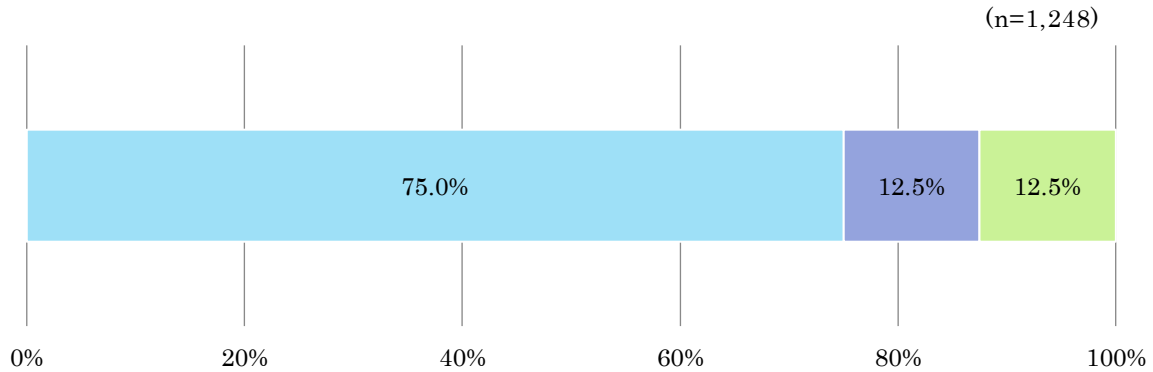
《参考：年代別集計》

年代別では、「まちの拠点とその周辺の医療・福祉・商業等が充実した利便性の高いエリア」について、30歳代が約60%と最も割合が高く、年代が上昇するにつれ、割合が減少するという結果であった。



(2) 人口減少と少子高齢化に対応するためのまちづくり（問7）

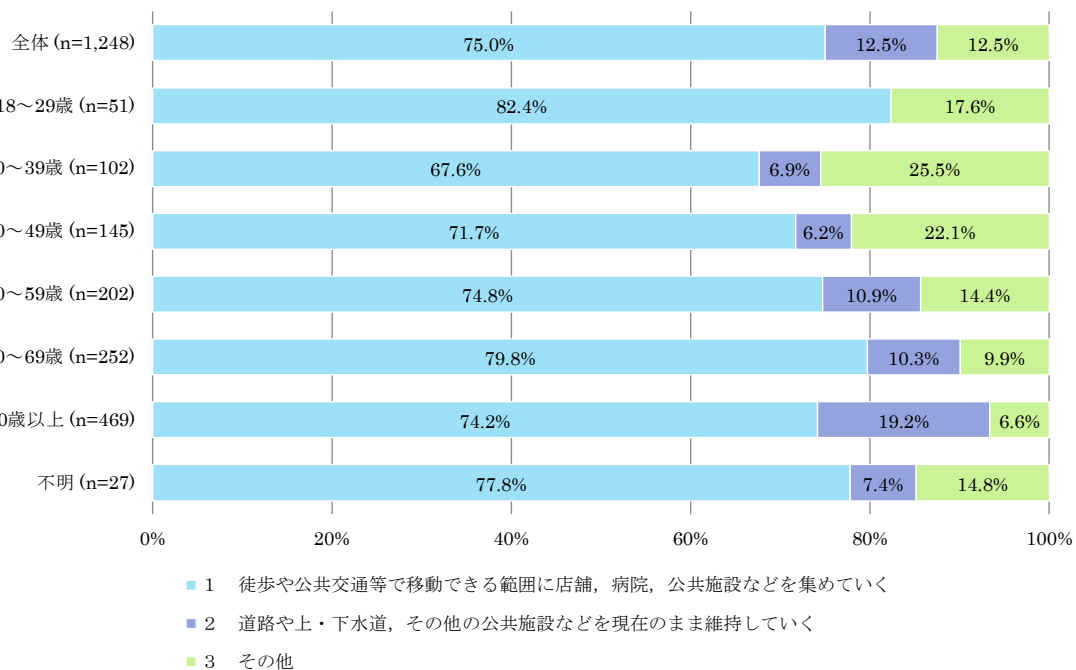
「便利で住みやすい生活環境を実現するため、徒歩や公共交通等で移動できる範囲に、店舗、病院、公共施設などを集めていく」が約75%と大半を占めており、「人口減少に伴って一人あたりの費用負担が増加しても、道路や上・下水道、その他の公共施設などを現在のまま維持していく」および「その他」が約13%であった。



- 1 便利で住みやすい生活環境を実現するため、徒歩や公共交通等で移動できる範囲に、店舗、病院、公共施設などを集めていく
- 2 人口減少に伴って一人あたりの費用負担が増加しても、道路や上・下水道、その他の公共施設などを現在のまま維持していく
- 3 その他

《参考：年代別集計》

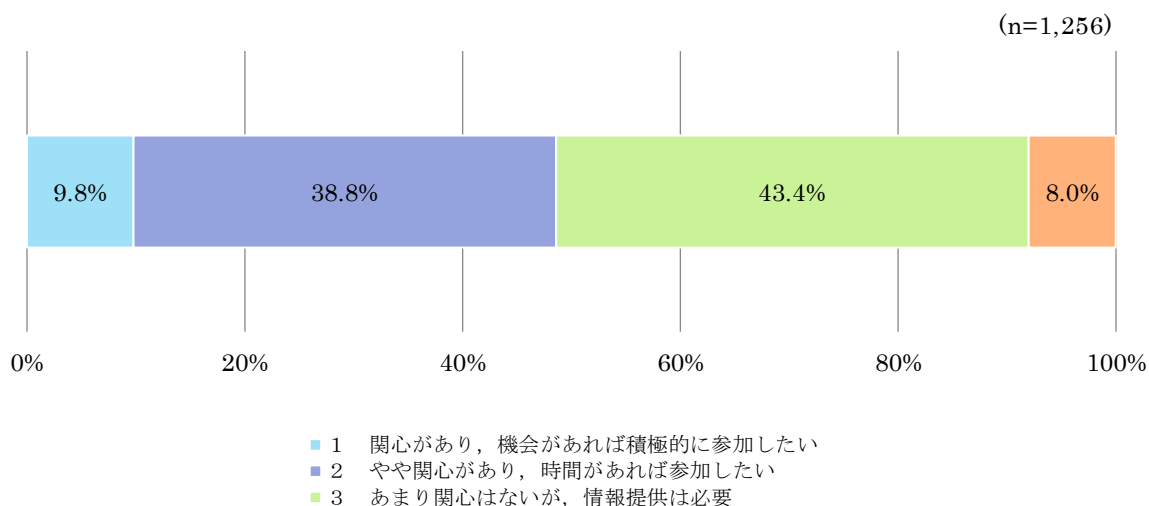
年代別では、「道路や上・下水道、その他の公共施設などを現在のまま維持していく」について、70歳以上が約19%となった一方で、20歳代未満で0%と、年代によって大きな差があった。



6 市民参加のまちづくりについて

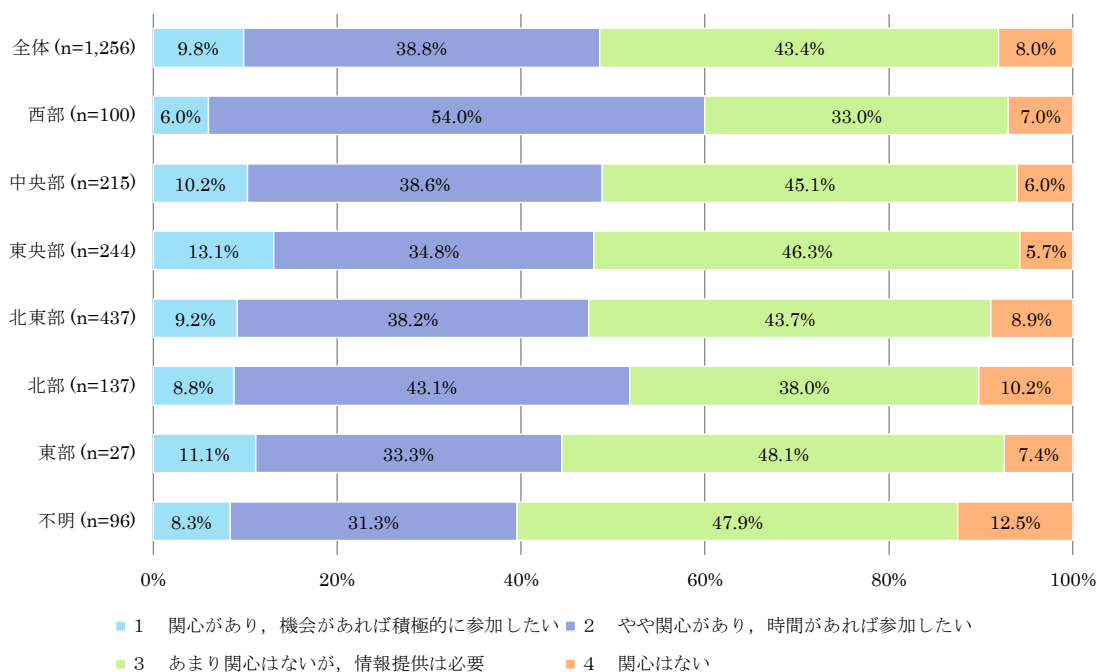
(1) 地域のまちづくりへの関心（問8）

「関心がある」と「やや関心がある」の合計が約49%、「あまり関心はない」と「関心はない」の合計が約51%であった。



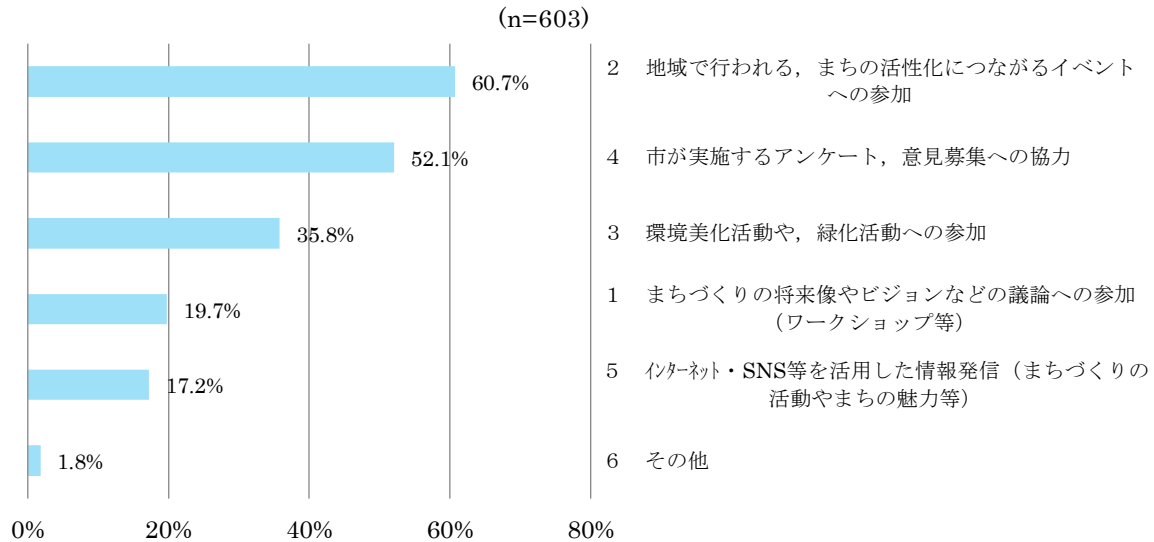
《参考：地区別集計》

地区別では、西部地区において「関心がある」と「やや関心がある」の合計が約60%と、全体の約49%を大きく上回り、次いで北部地区で約52%であった。



(2) 地域のまちづくりへの参加方法（問9） 【2つまで選択】

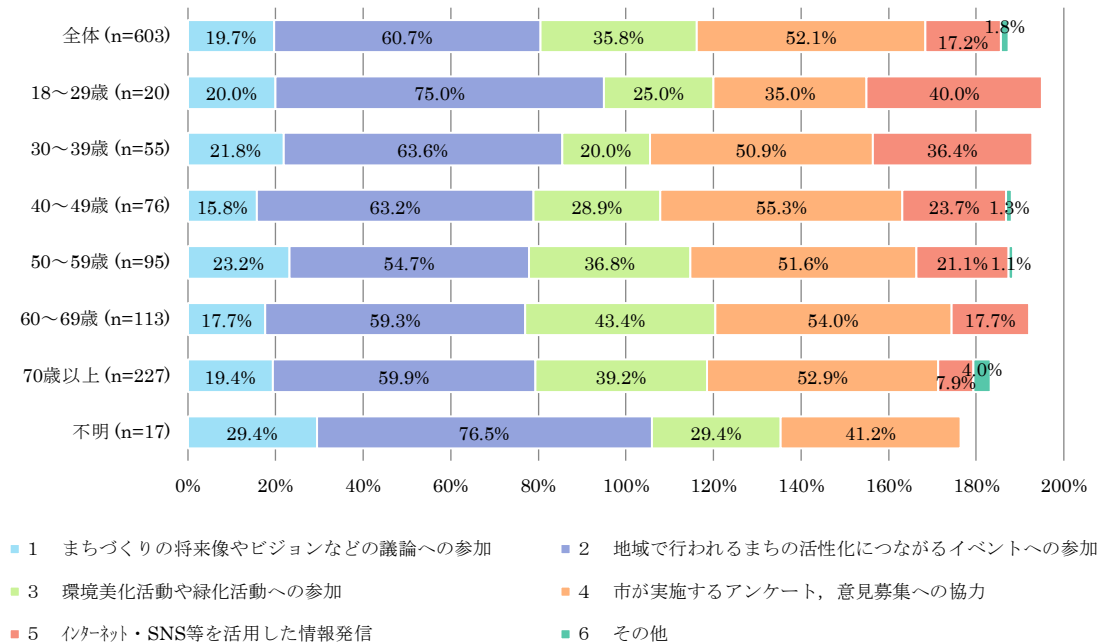
問8で「関心がある」と「やや関心がある」と回答した方のうち、「地域で行われる，まちの活性化につながるイベントへの参加」が約61%，次いで「市が実施するアンケート，意見募集への協力」が約52%であった。



《参考：年代別集計》

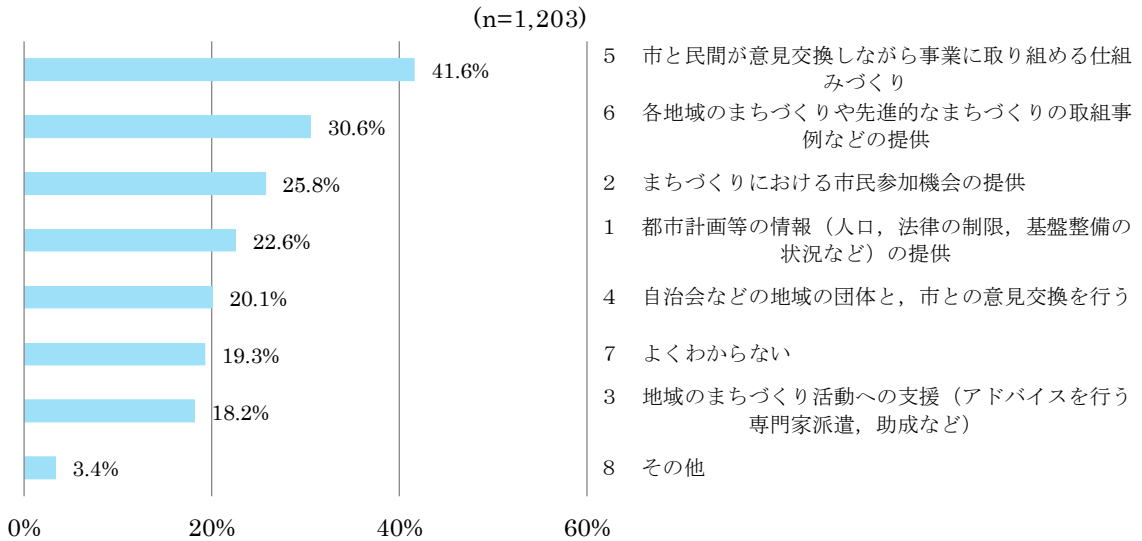
年代別では、「地域で行われる，まちの活性化につながるイベントへの参加」について，20歳代未満が約75%と，全体の約61%を大きく上回った。

また、「インターネット・SNS等を活用した情報発信」については，年代が上昇するにつれ，割合が減少するという結果であった。



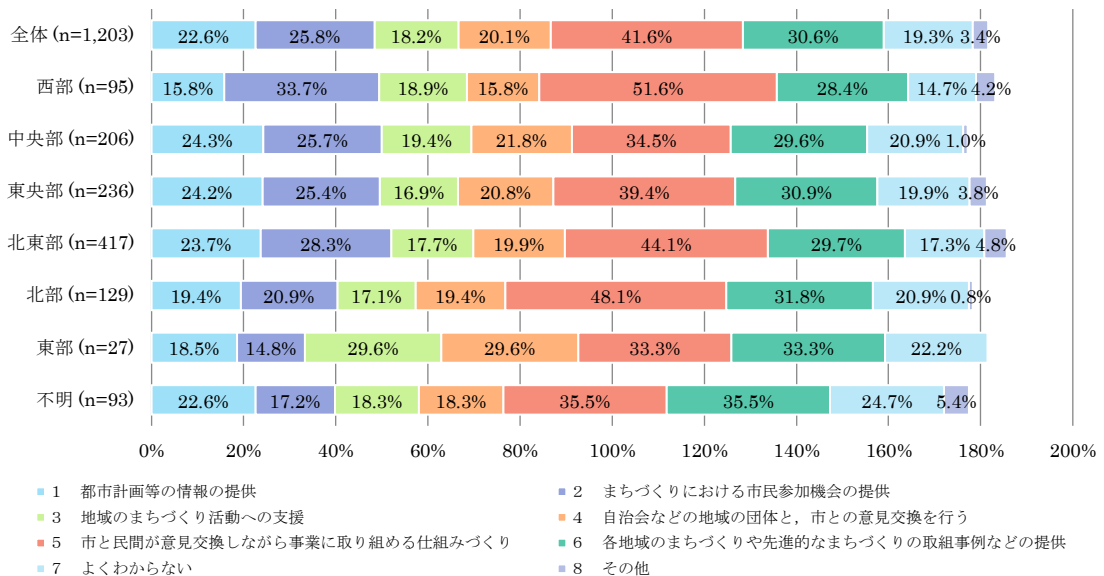
(3) 地域のまちづくりへの参加を促す取組み（問10） 【2つまで選択】

「市と民間が意見交換しながら事業に取り組める仕組みづくり」が約42%，次いで「各地域のまちづくりや先進的なまちづくりの取組事例などの提供」が同約31%，「まちづくりにおける市民参加機会の提供」が約26%となっている。



《参考：地区別集計》

地区別では、「市と民間が意見交換しながら事業に取り組める仕組みづくり」について，西部地区で約52%，北部地区で約48%，北東部地区で約44%と，全体の約42%を上回った。また、「まちづくりにおける市民参加機会の提供」について，西部地区で約34%となった一方で，東部地区では約15%にとどまるなど，地区によって大きな差があった。



7 自由意見

自由意見欄に何らかの意見の記載があったものは， 736票であった。

IV 資料編

1 地区区分

地区区分	町名
西部地区	入舟町, 船見町, 弥生町, 弁天町, 大町, 末広町, 元町, 青柳町, 谷地頭町, 住吉町, 宝来町, 東川町, 豊川町, 大手町, 栄町, 旭町, 東雲町, 大森町, 松風町, 若松町
中央部地区	千歳町, 新川町, 上新川町, 海岸町, 大縄町, 松川町, 万代町, 亀田町, 大川町, 田家町, 白鳥町, 八幡町, 宮前町, 中島町, 千代台町, 堀川町, 高盛町, 宇賀浦町, 日乃出町, 的場町, 時任町, 杉並町, 本町, 梁川町, 五稜郭町, 柳町, 松陰町, 人見町, 金堀町, 乃木町, 柏木町
東央部地区	川原町, 深堀町, 駒場町, 広野町, 湯浜町, 湯川町1丁目, 湯川町2丁目, 湯川町3丁目, 戸倉町, 榎本町, 花園町, 日吉町1丁目, 日吉町2丁目, 日吉町3丁目, 日吉町4丁目, 上野町, 高丘町, 滝沢町, 見晴町, 鈴蘭丘町, 上湯川町, 銅山町, 旭岡町, 西旭岡町1丁目, 西旭岡町2丁目, 西旭岡町3丁目, 鱒川町, 寅沢町, 三森町, 紅葉山町, 庵原町, 亀尾町, 米原町, 東畑町, 鉄山町, 蛾眉野町, 根崎町, 高松町, 志海苔町, 瀬戸川町, 赤坂町, 銭亀町, 中野町, 新湊町, 石倉町, 古川町, 豊原町, 石崎町, 鶴野町, 白石町
北東部地区	富岡町1丁目, 富岡町2丁目, 富岡町3丁目, 中道1丁目, 中道2丁目, 山の手1丁目, 山の手2丁目, 山の手3丁目, 本通1丁目, 本通2丁目, 本通3丁目, 本通4丁目, 鍛冶1丁目, 鍛冶2丁目, 陣川町, 陣川1丁目, 陣川2丁目, 神山町, 神山1丁目, 神山2丁目, 神山3丁目, 東山町, 東山1丁目, 東山2丁目, 東山3丁目, 美原1丁目, 美原2丁目, 美原3丁目, 美原4丁目, 美原5丁目, 赤川町, 赤川1丁目, 亀田中野町, 北美原1丁目, 北美原2丁目, 北美原3丁目, 水元町, 亀田大森町, 石川町, 昭和1丁目, 昭和2丁目, 昭和3丁目, 昭和4丁目, 亀田本町
北部地区	浅野町, 吉川町, 北浜町, 港町1丁目, 港町2丁目, 港町3丁目, 追分町, 桔梗町, 桔梗1丁目, 桔梗2丁目, 桔梗3丁目, 桔梗4丁目, 桔梗5丁目, 西桔梗町, 昭和町, 亀田港町
東部地区	小安町, 小安山町, 釜谷町, 汐首町, 瀬田来町, 弁才町, 泊町, 館町, 浜町, 新二見町, 原木町, 丸山町, 日浦町, 吉畑町, 豊浦町, 大濶町, 中浜町, 女那川町, 川上町, 日和山町, 高岱町, 日ノ浜町, 古武井町, 恵山町, 柏野町, 御崎町, 恵山岬町, 元村町, 富浦町, 島泊町, 新恵山町, 絵紙山町, 新八幡町, 新浜町, 銚子町, 古部町, 木直町, 尾札部町, 川汲町, 安浦町, 白尻町, 豊崎町, 大船町, 双見町, 岩戸町



1 あなたが住んでいる地域（日常の生活圏）のことについて

図1 あなたが住んでいる地域の生活に関する要素について、どのようにお考えですか。
現状の満足度と今後の重要度について、各要素につき1つずつ該当の欄に○を付けてください。

生活に関する要素	現状の満足度			今後の重要度		
	やや満足	やや普通	やや不満	やや重要	やや普通	やや重要
※ 記入例			○		○	
1 日用品の買い物の便り						
2 住宅周辺環境（日照・眺望・通風などの快適性）						
3 賑わいや活気						
4 地域内の交流や連帯感						
5 魅力的なまちなみ景観						
6 自然環境の豊かさ						
7 公害（騒音・振動・悪臭など）の少なさ						
8 災害（地震・水害・火災など）に対する安全性						
9 犯罪に対する安全性						
10 身近な生活道路の整備						
11 日常的に利用できる身近な公園						
12 公共交通機関（電車・バス・JR）の利便性						
13 幹線道路の整備						
14 医療施設（病院など）の充実						
15 介護・社会福祉施設（老人福祉センター、デイサービスセンターなど）の充実						
16 教育文化施設（学校、図書館、公民館など）、スポーツ施設の充実						
17 児童施設（保育園・幼稚園・児童館など）の充実						
18 高齢者や障がい者のためのバリアフリー化						
19 空き家・空き地の管理状況						
20 上記を総合的にふまえたうえで暮らしやすい						

「函館市都市計画マスタープラン」

（都市計画に関する基本的な方針）

見直しのための市民アンケート調査ご協力をお願い

日頃から、市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
函館市では、平成23年12月に「函館市都市計画マスタープラン」を改定し、それに基づき都市づくりを推進してきました。

その後、約11年が経過し、都市を取り巻く環境が大きく変化しているとともに、人口減少や少子高齢化の進行、厳しい財政事情など社会経済情勢等の大きな変化に対応していくため、この度、「都市計画マスタープラン」の見直しを行うこととしました。

このアンケート調査は、見直しにあたって市民の皆様、現在の函館市に対する課題やニーズ、将来の都市づくりについてのご意見をお伺いするものであります。

調査票は、函館市にお住まいの18歳以上の方から4,000人を無作為に抽出して配布しており、調査は無記名で行い、計画策定の基礎資料としてのみ使用し、他に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年（2023年）11月 函館市

《ご回答にあたってのお願い》

- 質問には、できるだけ封筒のあて名のご本人がお答えください。ただし、お一人で回答することが難しい場合には、ご家族と相談してお答えください。
- ご回答はアンケート用紙に、ボールペン・鉛筆等で直接ご記入ください。
11月17日（金）までに郵便ポストにご投函ください。
（切手を貼る必要、お名前を記入する必要はありません。）

《アンケート調査に関する問い合わせ先》

函館市都市建設部都市計画課 電話：0138-21-3360

3 あなたの普段の移動手段について

問3 市内を移動するのに、日常的に利用している交通手段は何ですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 路面電車	7 自動車	問3-aへ	回答欄
2 路線バス	8 タクシー	⇒	
3 路線バスと路面電車を乗り継いで	9 バイク	⇒	
4 路線バスと路線バスを乗り継いで	10 自転車	⇒	
5 J R	11 ほとんど利用しない	⇒	
6 J Rと路線バス・路面電車を乗り継いで	12 その他	⇒	
	(具体的に)		

問3-a (問3で「7.自動車」を選択した方のみお答え下さい)
あなたが市内を移動するのに、路面電車や路線バスなどの公共交通機関を利用しない理由は何ですか。2つまで選んで右の回答欄に記入してください。

1 バス停・電停までの距離が遠い	6 座れない、乗り心地が悪い	回答欄
2 目的地向く路線が無い	7 移動に時間がかかる	
3 運行本数・時間帯が悪い	8 目的地に行くための路線や停留所の位置がわからない	
4 運賃が高い	9 その他	
5 乗り換えがめんどう	(具体的に)	

4 西館市の都市づくりについて

問4 西館市全体の都市づくりに関わる各要素について、どのようにお考えですか。現状の満足度と今後の重要度について、各要素につき1つずつ該当の欄に○を付けてください。

都市づくりに関わる要素	現状の満足度			今後の重要度		
	やや満足	満足	重要でない	やや重要	重要	重要でない
※ 記入例		○				○
1 魅力的なまちなみ景観						
2 自然環境の豊かさ						
3 災害(地震・水害・火災など)に対する安全性						
4 犯罪に対する安全性						
5 市街地(建物敷地・道路など)の緑化						
6 大規模な公園の整備						
7 公共交通機関(電車・バス・J R)の利便性						
8 幹線道路の整備						

(次のページに続く)

2 あなたのお住まいのことについて

問2 あなたはこのまま西館市に住み続けたいですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 今のところこのまま住み続けたい	⇒	問3へ	回答欄
2 西館を離れるかもしれないが、最終的には戻ってきたい	⇒	問2-aへ	
3 市内の良いところを選んで、転居しながらも住み続けたい	⇒	問2-bへ	
4 いずれ他の都市へ移り住みたい	⇒		
5 すぐにも他の都市へ移り住みたい	⇒		
6 その他	⇒	問3へ	
(具体的に)			

問2-a (問2で「3」を選択した方のみお答えください)

① 行き先はどこですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 西部地区	4 [1~3]以外で産業道路から内側	回答欄
2 市街駅前・大門地区やその周辺	5 産業道路から外側	
3 市電沿線	6 その他(具体的に)	

② 転居したい理由は何ですか。2つまで選んで右の回答欄に記入してください。

1 仕事の都合・結婚	7 病院の近くに住みたい	回答欄
2 子供・親などとの同居	8 自然が多い場所に住みたい	
3 賃貸住宅などから一戸建てに住みたい	9 除雪など家の維持管理が大変	
4 マンションに住みたい	10 周辺の住環境が悪い	
5 公共交通機関の便利な場所に住みたい	11 現在の家賃が高い	
6 日用品の買い物が便利な場所に住みたい	12 その他	
(具体的に)		⇒ 問3へ

問2-b (問2で「4または5」を選択した方のみお答えください)

① 行き先はどこですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 北斗市や七飯町などの近隣市町	4 三大都市圏(東京・大阪・名古屋近郊)	回答欄
2 札幌市およびその近郊	5 その他	
3 [1, 2]以外で道内の他の市町村	(具体的に)	

② 西館を離れた理由は何ですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 仕事の都合・結婚	4 希望の条件に合う住居が見つからない	回答欄
2 子供・親などとの同居	5 商業施設等が充実した都市に住みたい	
3 現在の家賃が高い	6 その他	
(具体的に)		⇒ 問3へ

5 まちなかの居住について

問6 将来、あなたはどのような環境の場所に住みたいと考えていますか。

1 つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 まちの拠点（函館駅前・大門、本町、五稜郭・梁川、美原、湯川）とその周辺の医療・福祉・商業等が充実した利便性の高いエリア	回答欄
2 路線バス、市電の沿線など、公共交通の利便性の高いエリア	
3 医療・福祉・商業・公共交通の利用には不便だが、人が少なく閑静な郊外エリア	
4 その他（具体的に）	

問7 今後、人口減少と少子高齢化の進行に対応するため、どのようなまちづくりを行っていきべきだと思いますか。1 つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 便利で住みやすい生活環境を実現するため、徒歩や公共交通等で移動できる範囲に、店舗、病院、公共施設などを集めていく	回答欄
2 人口減少に伴って一人あたりの費用負担が増加しても、道路や上・下水道、その他の公共施設などを現在のまま維持していく	
3 その他（具体的に）	

6 市民参加のまちづくりについて

問8 地域のまちづくりに関心がありますか。1 つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 関心があり、機会があれば積極的に参加したい	回答欄
2 やや関心があり、時間があれば参加したい	
3 あまり関心はないが、情報提供は必要	
4 関心はない	

問9 地域のまちづくりにどのように参加したいですか。2 つまで選んで右の回答欄に記入してください。

1 まちづくりの将来像やビジョンなどの議論への参加（ワークショップ等）	回答欄
2 地域で行われる、まちの活性化につながるイベントへの参加	
3 環境美化活動や、緑化活動への参加	
4 市が実施するアンケートへの協力	
5 カフェ・SNS等を活用した情報発信	
6 その他（具体的に）	

問10 市民が地域のまちづくりに参加するためには、市民や地域に対して、今後どのようなことに取組むことが望ましいと思いますか。2 つまで選んで右の回答欄に記入してください。

1 都市計画等の情報（人口、法律の制限、基盤整備の状況など）の提供	回答欄
2 まちづくりにおける市民参加機会の提供	
3 地域のまちづくり活動への支援（アドバースを行う専門家派遣、助成など）	
4 自治会などの地域の団体と、市との意見交換を行う	

（前ページの続き）

9 自転車が行きやすい道路									
10 医療施設（総合病院など）の充実									
11 文化施設（図書館、博物館など）の充実									
12 大規模なスポーツ施設（グラウンド・体育館など）の充実									
13 コミュニティ施設（福祉センター・公民館など）の充実									
14 高齢者や障がい者等のための施設									
15 レジャー・娯楽施設の充実									
16 中心市街地（函館駅前・大門地区、本町・五稜郭・梁川地区）の活性化									
17 まちなか（函館駅前・大門地区、本町・五稜郭・梁川地区）の定住促進									

問5 将来の函館市（市全体、お住まいの地域）に期待する「まち」のイメージについて、あなたのお考えに近いものを選んで該当の欄に○を付けてください。

	市全体	お住まいの地域
1 ゆとりのある良好な住環境のまち		
2 自然環境の豊かなまち		
3 建物やまちなみなどの景観を大切にしましたまち		
4 自然・歴史を活かした観光・交流のまち		
5 買い物など日常生活をしやすいまち		
6 徒歩や公共交通（バス、電車、JR）で移動しやすいまち		
7 働く場所が多く昼間にもぎわうまち		
8 子育て・教育環境が充実したまち		
9 高齢者・障がい者を含むすべての人にやさしいまち		
10 人の多様性を認め、誰も排除されないまち		
11 災害に強い安全・安心なまち（空家の解消など）		
12 犯罪が少ない安全・安心なまち		
13 文化・スポーツ振興が盛んなまち		
14 農林漁業の盛んなまち		
15 工業の盛んなまち		
16 その他（具体的に）		

問 14 あなたのお住まいになっている住居形態について、
1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 一戸建て（持ち家）	5 社宅、盲舎、寮	回答欄
2 共同賃貸住宅（アパート、公営住宅等）	6 その他 (具体的に)	
3 分譲マンション		
4 一戸建て（借家）		

問 15 今あなたはどのような家族構成で暮らしていますか。
1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 単身	4 親と子(18歳未満の子がいらない)	回答欄
2 夫婦のみ	5 親と子と孫など(3世代以上)	
3 親と子(18歳未満の子がいる)	6 その他	

8 自由意見

最後に、簡単に結構ですので、函館市のこれからのまちづくりに対してのご提案・ご意見などが
ありましたら、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきましたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れ、
11月17日(金)までに郵便ポストにご投函ください。

(切手を貼る必要、お名前を記入する必要はありません。)

7 あなたご自身のことについて

問 11 あなたの性別・年齢について、右の回答欄に記入してください。

・性別		回答欄
1 男性	2 女性	3 回答しない

・年齢		回答欄
1 18～29歳	4 50～59歳	
2 30～39歳	5 60～69歳	
3 40～49歳	6 70歳以上	

問 12 あなたのお住まいの町名をお書きください。

町	丁目
---	----

問 13 あなたは**函館市**に何年くらいお住まいですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。
(田戸井町・恵山町・緑法華村・南茅部町・旧亀田市の在任期間を含みます)

1 3年未満	⇒ 問 13-a へ	回答欄
2 3～10年未満		
3 10～20年未満		
4 20～30年未満	⇒ 問 14 へ	
5 30年以上		

問 13-a (問 13で「1～2」を選択した方のみお答えください)

① 以前にお住まいだった場所はどこですか。1つ選んで右の回答欄に記入してください。

1 北斗市や七飯町などの近隣市町	5 函館市内の他の場所	回答欄
2 札幌市およびその近郊	(町)	
3 [1, 2]以外で道内の他の市町村	6 その他	
4 三大都市圏(東京・大阪・名古屋近郊)	(具体的に)	

② 現在のお住まいに転居した理由は何か。3つまで選んで右の回答欄に記入してください。

1 仕事の都合・結婚	9 周辺の住環境が良い	回答欄
2 学校(大学など)の通学	10 防災のことを考慮した (防災が「ドック」などを参考にした)	
3 子供・親などの同居	11 住まいに関する支援制度など利用のため (制度名:)	
4 公共交通機関の便利な場所	12 その他 (具体的に)	
5 日用品の買い物が便利な場所		
6 病院の近く		
7 自然が多い場所		
8 児童施設(保育所など)の近く		

⇒ 問 14 へ